



●この説明書は、必ず取付けされる方にお渡しください。

### ■取付けされる方へのお願い

●本説明書で使われているマークには、以下のような意味があります。

**▲警告** …取付けを誤った場合に、使用者などが死亡又は重傷を負う危険が想定されます。冒頭にまとめて記載していますので必ずお読みください。

**▲注意** …取付けを誤った場合に、使用者などが中程度の傷害・軽傷を負う危険又は物的損害の発生が想定されます。冒頭にまとめて記載していますので必ずお読みください。

### ▲警告

●下記のような医用電子機器を使用されている方は、操作を行わないでください。

各医用電子機器に誤作動をまねくおそれがあります。

(1)ペースメーカーなどの体内埋込型機器 (2)人工心肺などの生命維持用機器 (3)装着型の心電計など

### ▲注意

●本体脱落のおそれがあるため、下記事項をお守りください。

- ・吊車の本体への取付けは、吊車が本体木口面と同一面になるまで押し込んでください。押し込み後、引っ張って抜けないことを確認してください。押し込みが足りないと本体が脱落するおそれがあります。
- ・ねじは指定のものを指定本数使用して固定してください。

### ■取付け上のおお願い

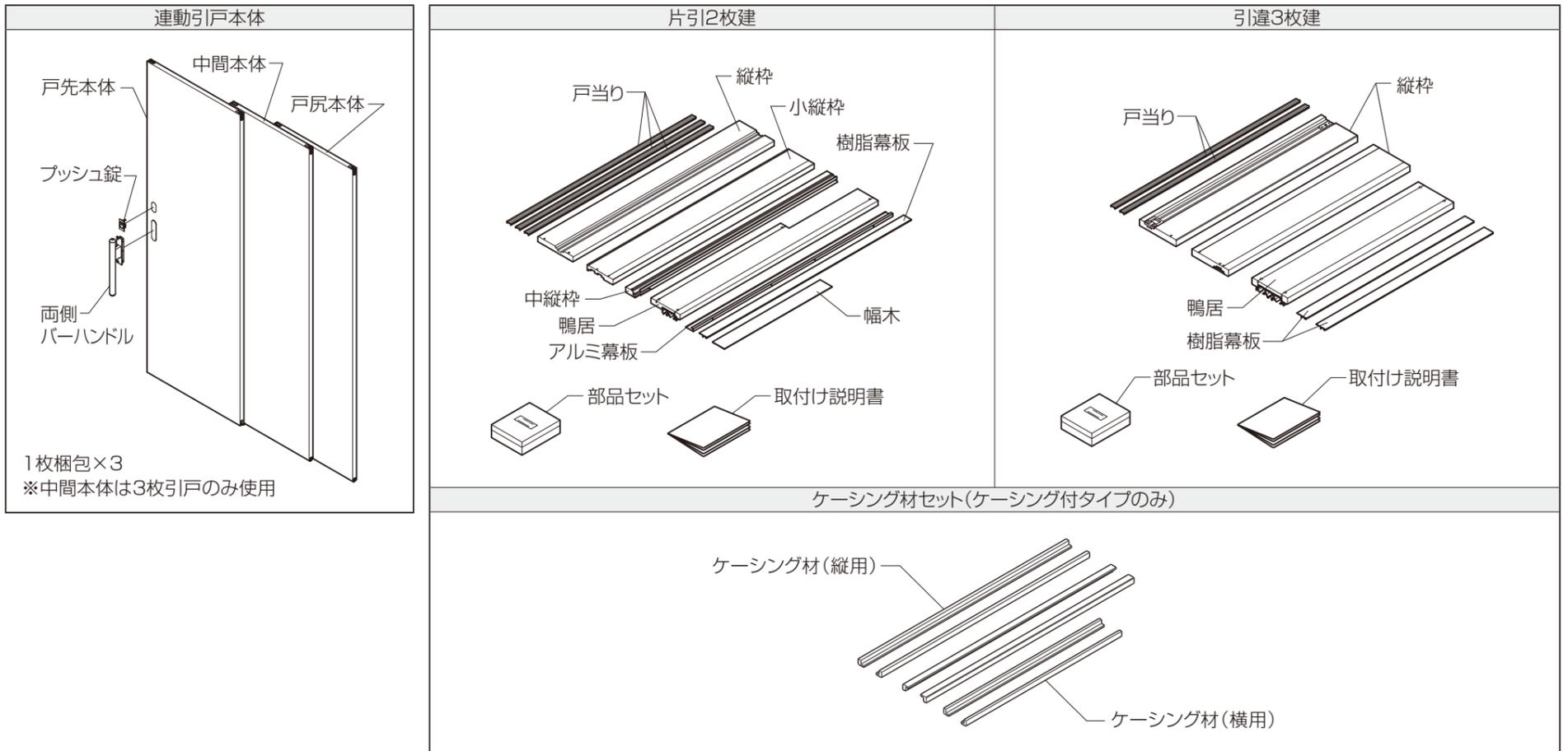
- 納品時に各部材・部品を検品してください。万一製品に不具合があった場合は、必ず取付け前にお買い求め店までご連絡ください。(施工後の色調・不具合・キズなどによる交換はできません。)
- 運搬・加工の際は、キズ付かないように取扱ってください。
- 本製品は上吊方式を採用しているため必ず構造計算の上、梁(まぐさ)に強度を持たせてください。強度が不足している場合、上枠および、レールの垂れ下がりの原因になります。
- 造作材・建具枠をコンクリートやモルタル(床面)に直付けしないでください。やむを得ず直付けする場合は、造作材・建具枠木口と床面の間に、必ず防水処理をしてください。
- 造作材・建具枠と柱・間柱・まぐさの間には必ずすき間をつくり、かい木を入れてください。
- 造作材・建具枠の下地材および、かい木には、合板などの乾燥材(含水率20%以下)を使用し、湿潤材は使用しないでください。
- 造作材・建具枠を取付ける時は、必ず接着剤(現場手配)を併用してください。かい木を使用する場合は、かい木の両面に接着剤(現場手配)を塗布してください。
- 現場で使う接着剤は、「F☆☆☆☆」またはノンホルムタイプを使用してください。
- 壁内の通気が悪く、内部結露が発生するおそれがある場合は、防水処理をしてから取付けてください。
- 梁またはまぐさが軽量鉄骨の場合は、ねじ保持力が弱いので直接固定しないでください。必ず枠と軽量鉄骨の間に木枠を入れて取付けてください。
- 枠は取付け前に開梱した状態で現場に置かないようにしてください。現場の粉塵が上レールや吊車に付着し、作動不良の原因になります。
- 本製品の組立て・取付け時には、同梱の指定ねじを使用してください。他のねじを使用すると、部品・部材の脱落や、枠の垂下がり・ゆがみなどの原因となります。(本説明書内で「現場手配」と記されている場合は除きます。)
- 本製品のねじ締付け時には、クラッチ付きドライバーを使用してください。締付けトルクが強すぎると、ねじが空転したり、ねじの頭がとんだり、つぶれたりする場合があります。
- 組立てねじは、縦枠とねじ頭が面一になるまで締め込んでください。ただし、たたきこまないようにしてください。保持力低下の原因となります。
- 各部材のガイド穴にゴミが入らないようにしてください。
- 枠の組立て後、揺らす・ねじれ・引っ張りなど無理な力を加えないでください。破損する原因になります。
- 枠取付けの際は、水準器・下げ振りなどで水平・垂直を確認してください。
- 枠は倒れ、傾き、タイコ、ツツミ、ねじれがないように取付けてください。片引き枠の場合は、中縦枠の施工にご注意ください。吊込み後、本体とのすき間・干渉の原因になります。
- 片引戸の建具引込み部の半壁は、枠を開口部に取付けてから取付けてください。
- 枠組立て前に鴨居のレールに吊車を挿入してください。吊車の入れ方を間違えると本体の吊込みおよび、建付け調整ができません。
- 鴨居取付けねじの締めすぎにご注意ください。上レールを変形させると本体の動きが悪くなる場合があります。本体吊込み時に動きが悪い場合は、ねじをゆるめてください。
- ガイドピンは、「**6**ガイドピンの取付け」通りに正確な位置に取付けてください。本体の開閉操作に支障がでる原因になります。
- 埋込みガイドピン仕様の場合、クッションフロアや弾性のある床には取付けしないでください。部品が浮いて開閉に支障をきたす場合があります。
- 本体は落下させたり、立てかける時に衝撃を与えないでください。本体部品が損傷し、開閉に支障をきたす原因になります。
- 別梱のバーハンドルセット内に同梱されている「戸当り」「戸当り受け」は本製品には不要ですので、取付けしないでください。
- 吊車(ソフトモーション付)に潤滑油などを塗布しないでください。作動不良の原因になります。
- 製品取付けの際の建具養生時に表面シートにテープ(ガムテープ、養生テープ、マスキングテープなど)を直貼りしないでください。テープをはがす際、表面シートを傷めたり、テープの粘着剤が表面シートに付着したまま残ることがあります。

### ■本体保管上のおお願い

- 本体のソリ・ねじれ防止のため、下記場所に置いたり、保管しないでください。
    - ・直射日光の当たる場所
    - ・昼夜などで温度差の激しい場所
    - ・湿気の多い場所
  - 本体を長期間保管する場合は、寝かせた状態で保管してください。立て置きでの保管はソリ・ねじれなどの原因になります。
- ※建築工事中は、本体を養生・保全のため取外しておき、取付け完了後に吊込むことをおすすめします。

## ■部材・部品一覧表

※枠はロックダウン、本体は完成品です。



### ■連動引戸本体

名称	入数	
	片引2枚建	引違3枚建
戸先本体	1	2
中間本体	1	1

### ■バーハンドルセット

名称	入数
バーハンドル・オス	1
バーハンドル・メス	1
皿小ねじM5×30	2
取付け説明書	1
※戸当り	1
※戸当り受け	1
※戸当り固定ねじ	1

※の部品は本製品には不要になります

### ■プッシュ錠セット

名称	入数
プッシュ錠本体	1
錠座カバー(シリンダー錠のみ)	1
取付け用皿タッピンねじφ3.5×16(シリンダー錠のみ)	2
カギ(シリンダー錠のみ)	3
取付け説明書	1

### ■枠セット

名称	入数	
	片引2枚建	引違3枚建
鴨居	1	1
縦枠	1	2
中縦枠	1	—
小縦枠	1	—
戸当り	3	2
幅木	1	—
樹脂幕板	1	2
アルミ幕板	1	—
部品セット	1	1
取付け説明書	1	1

### ■ケーシングセット

名称	入数	
	片引2枚建	引違3枚建
横部材	2	2
縦部材	4	4

### ■部品セット

名称	入数	
	片引2枚建	引違3枚建
組立て用皿小ねじ M4×50	4	4
鴨居取付け用トラスタッピンねじφ4×50	10	9
縦枠取付け用DNビス(皿木ねじ)φ3.8×50	6	6
吊車(ソフトモーション付)	1	2
吊車	3	4
ソフトモーション受け金具	1	2
ソフトモーション受け金具取付け用低頭小ねじ M3×12	2	4
L型ガイドベース(キャップ付)	1	2
L型ガイド取付け用皿タッピンねじφ4×16	3	6
連動固定金具	1	—
連動固定金具取付け用なべタッピンねじφ4×20	2	—
幕板取付け用なべタッピンねじ1種φ4×20	4	—
埋め込みガイドピン	1	4
埋め込みガイドピンベース	1	4
固定ガイドピン(皿タッピンねじ2本同梱)	1	—

## 開口部の作り方

### 開口部寸法の出し方

※開口部の水平・垂直を正しく出してください。  
 ※本製品は上吊方式を採用しています。梁(まぐさ)は、強度を要するため、105×180(mm)以上を使用してください。強度が不足している場合、上枠および、レールの垂下がりの原因になります。

### 対応壁厚

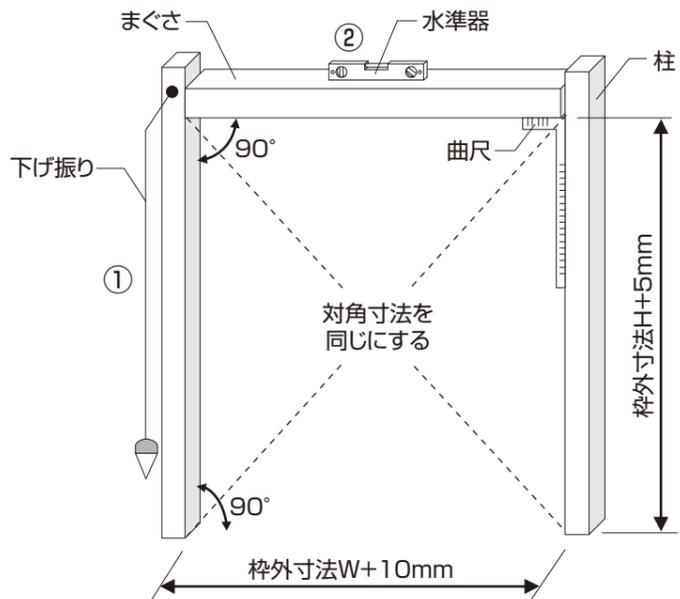
(単位:mm)

ノンケーシングタイプ	対応壁厚
NC156	116~130
NC171	131~145
NC180	146~160

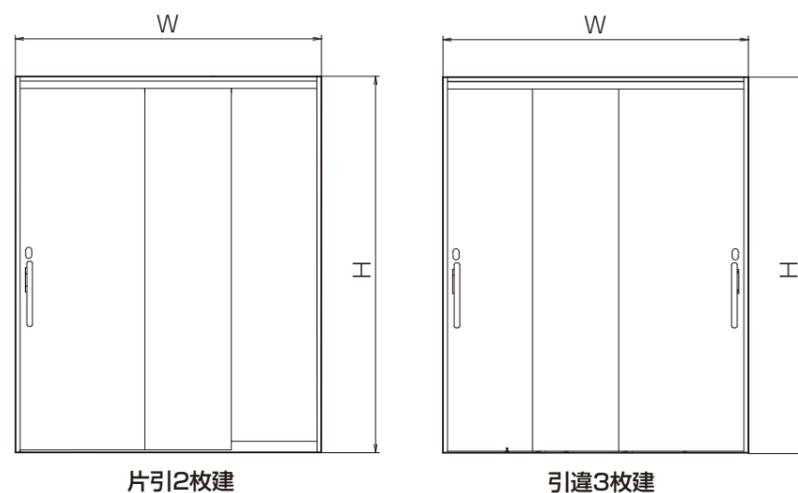
### 壁厚の違いによる枠とケーシングの組合せ

(単位:mm)

	ケーシング(足寸法)	対応壁厚
片引2枚	8	157~167
	14	168~179
	19	180~187
	25	188~198
引違3枚	8	150~160
	14	161~172
	19	173~180
	25	181~191

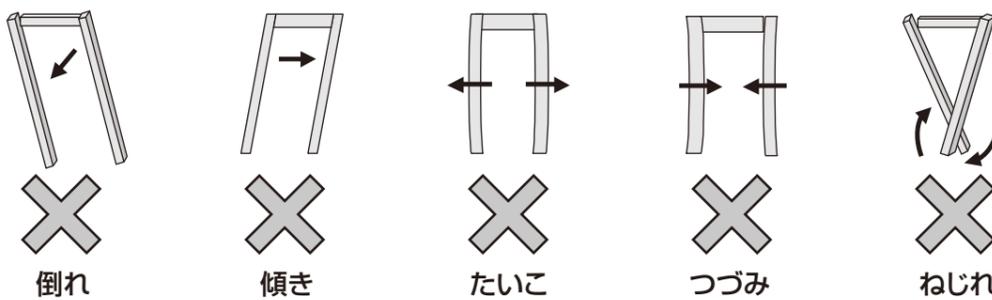


### 製品寸法



- ①下げ振りを使って、柱が垂直になるように取付けてください。
- ②水準器・曲尺を使って、まぐさが柱と垂直で、水平になるように取付けてください。

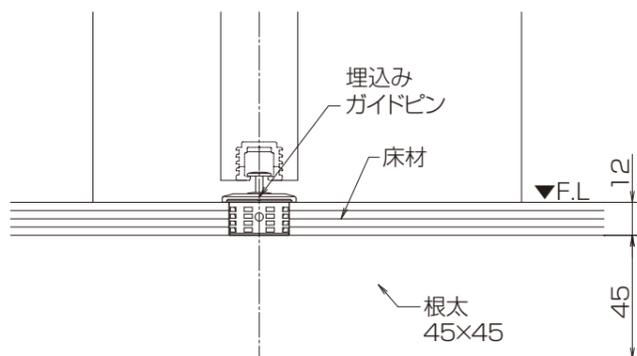
※柱、床、まぐさの水平・垂直がでていないと、枠が下図のようになり、不具合現象につながります。



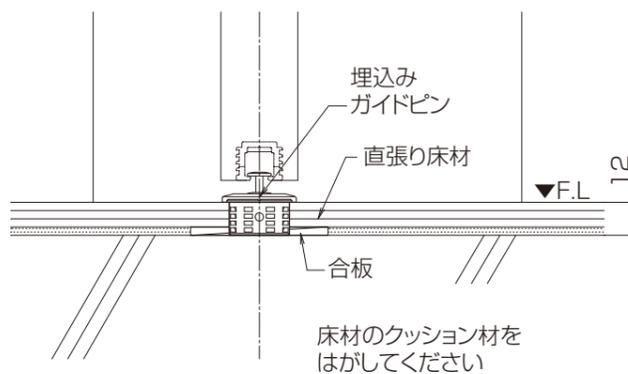
## 床の張り方

※本製品は床先張り(枠後付け)専用です。枠の取付け前に床を張ってください。

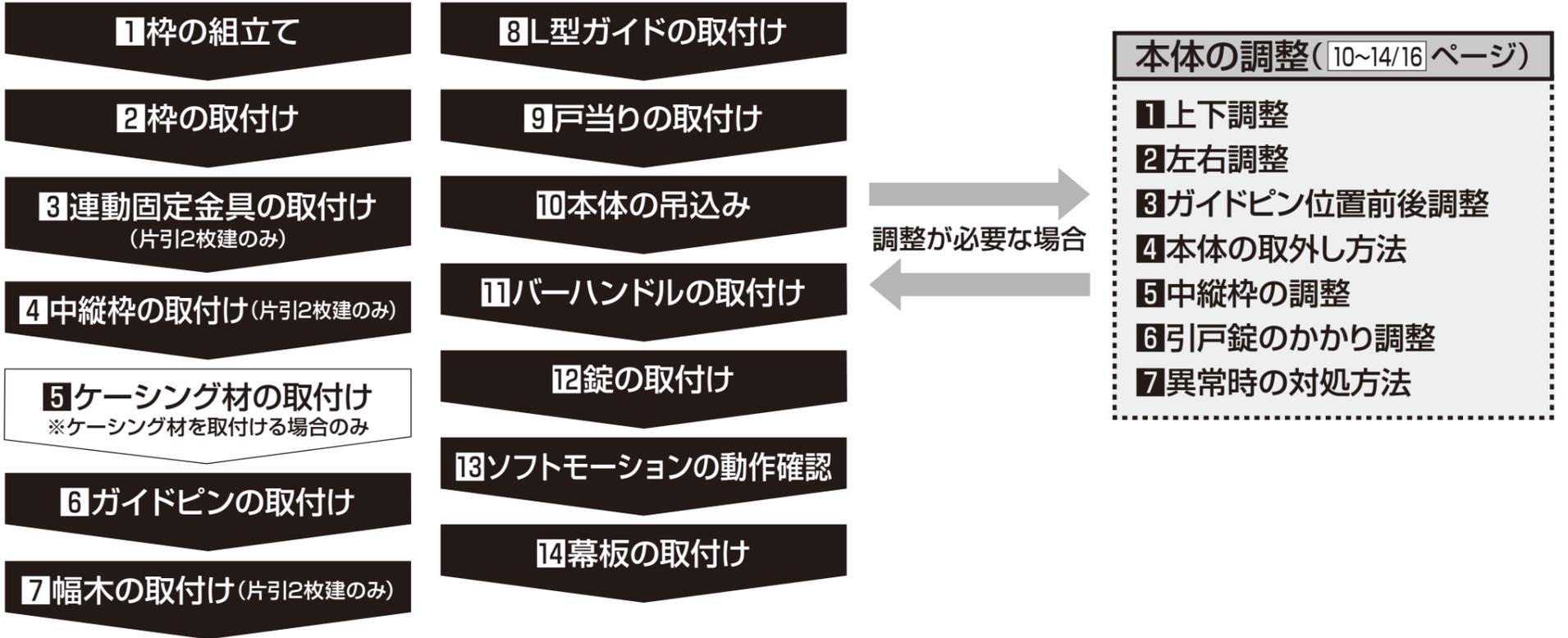
### 木造の場合



### RC造の場合 直張り床材

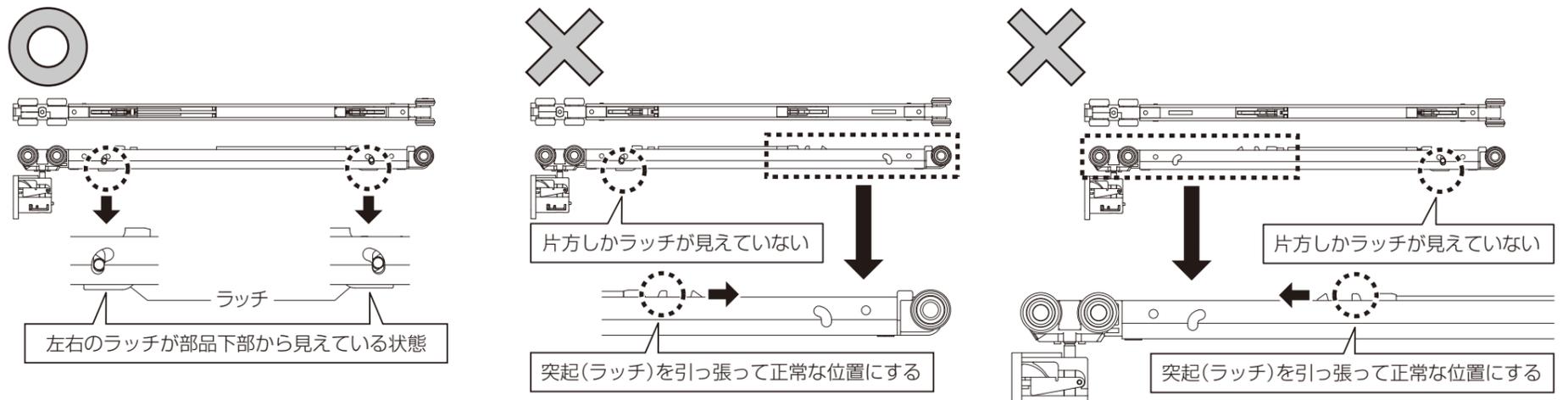


■ 取付け順序

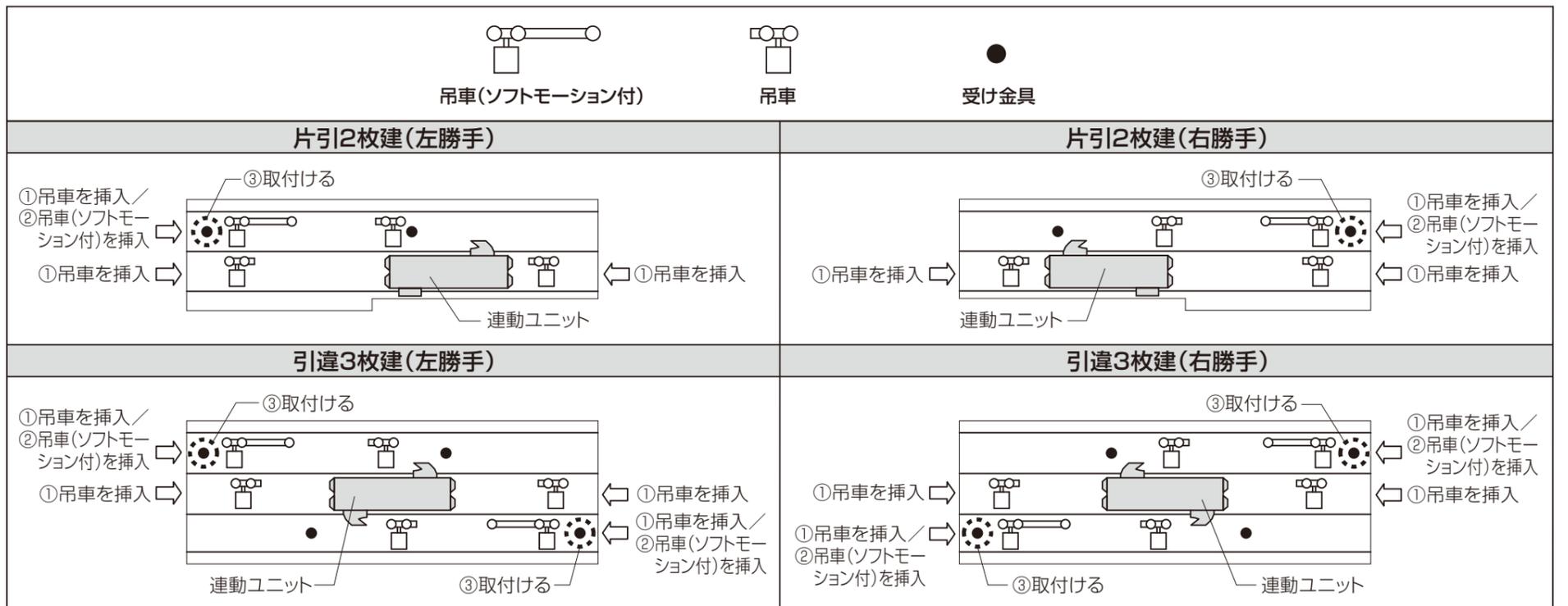


■ 1 枠の組立て

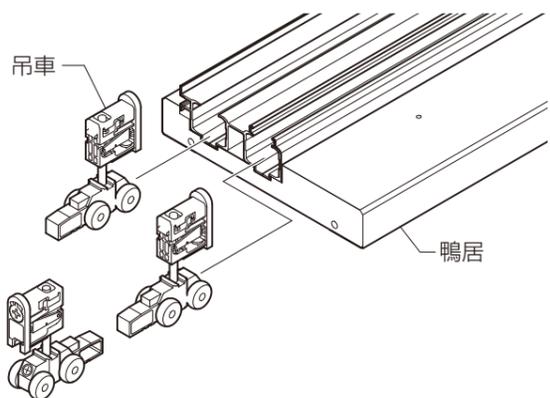
● 吊車(ソフトモーション付)のレール挿入前の確認



■ 吊車の挿入



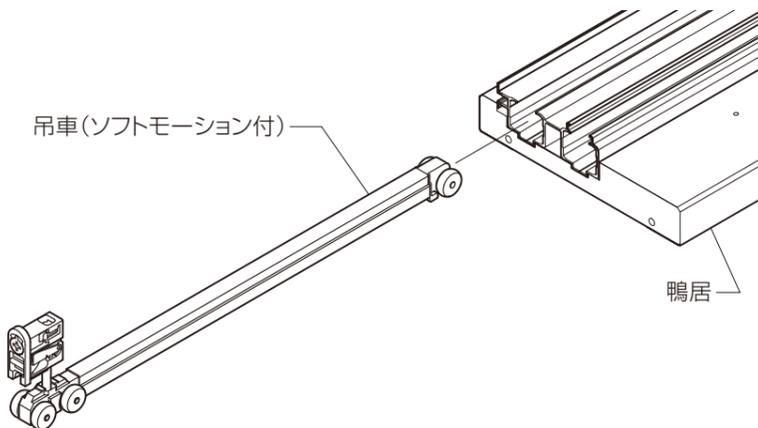
①吊車を挿入してください。



お願い

※吊車を挿入する際は、調整ねじが外側にくるように取付けてください。

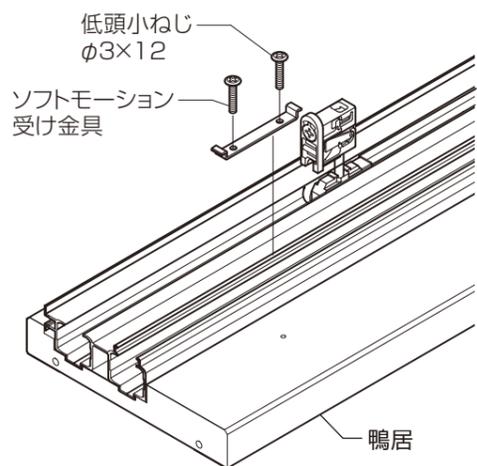
②吊車(ソフトモーション付)を挿入してください。



お願い

※吊車(ソフトモーション付)に潤滑油などを塗布しないでください。作動不良の原因になります。

③ソフトモーション受け金具を固定してください。



お願い

※吊車(ソフトモーション付)は2個の受け金具の間に来るように配置します。

※完全に固定されるまで、上レールにしっかりと固定してください。ソフトモーションの作動不良の原因になります。

■ 枠の組立て

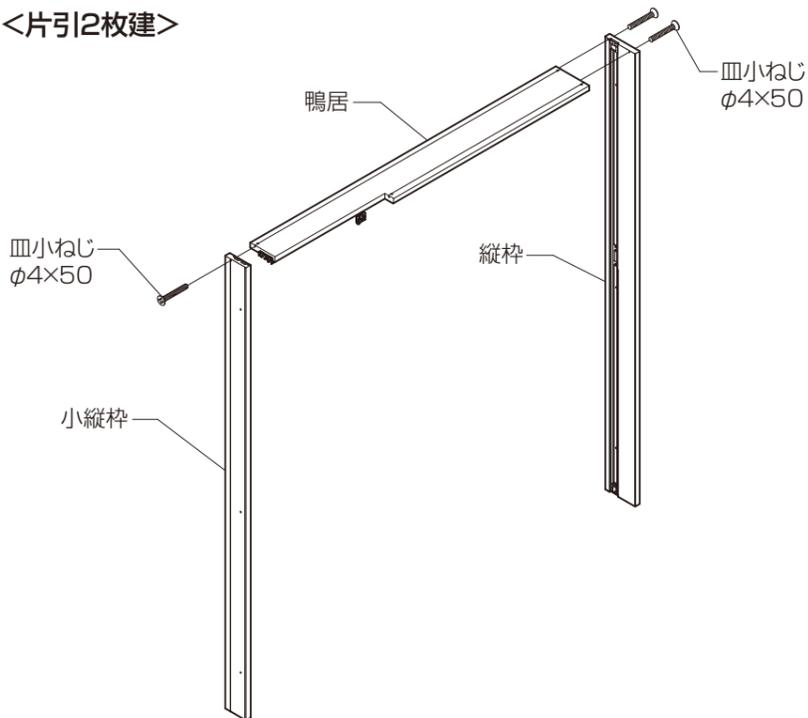
①鴨居に左右の縦枠を皿小ねじφ4×50で組立ててください。

※片引2枚建の中縦枠は後で取付けます。

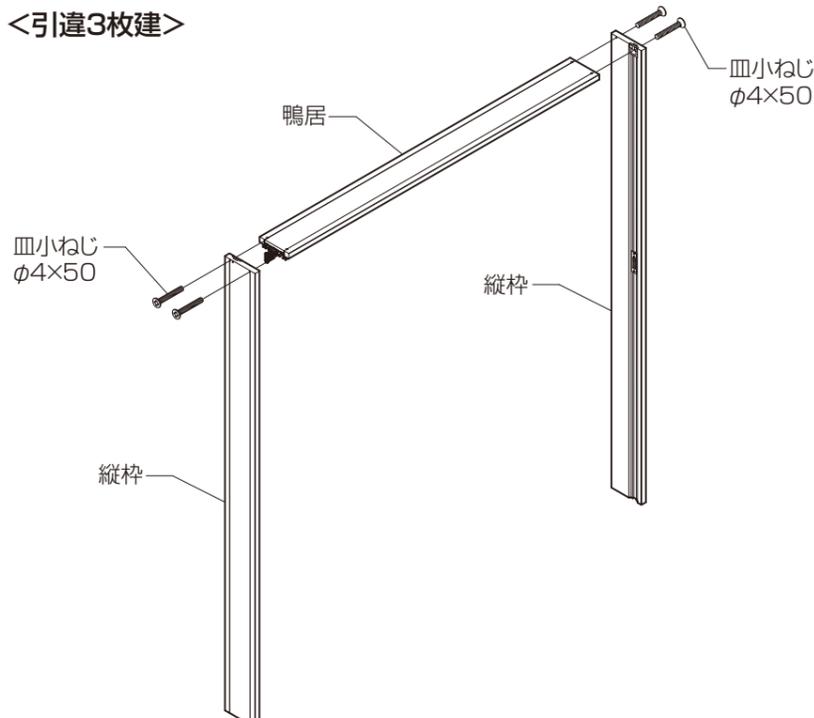
お願い

※破損防止のため、組立て後の移動は必ず2名以上で行ってください。

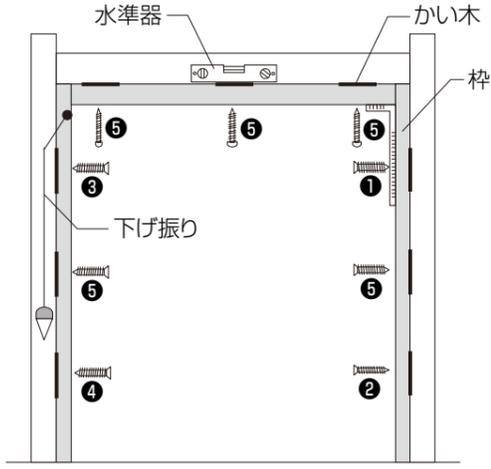
<片引2枚建>



<引違3枚建>

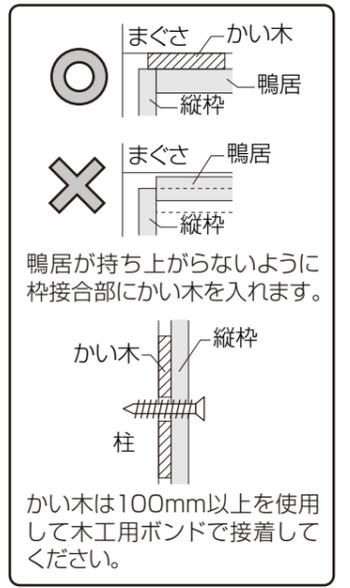


## 2 枠の取付け



- ① 枠を開口部にはめ込んで、鴨居の水平を確認してから、縦枠の①を仮固定してください。
  - ② 下げ振りを使って垂直・倒れないことを確認してから、縦枠の②を仮固定してください。
  - ③ 水準器で鴨居の水平を確認してから縦枠の③を仮固定してください。
  - ④ 下げ振りを使って垂直・倒れないことを確認してから、縦枠の④を仮固定してください。
  - ⑤ 枠の水平・垂直を再度確認して、上下、左右のすき間をかき木で調整後、残りのねじで本固定してください。
- ※枠に水系を張るなどして枠が曲がっていないことを必ず確認してください。  
 ※縦枠の固定個所を増やしたい場合は、現場手配の木ねじで躯体に固定してください。

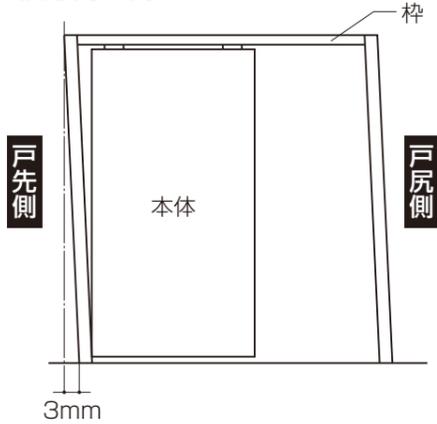
**お願い**  
 ※枠の倒れ、傾き、タイコ、ツツミ、ねじれがないように取付けてください。



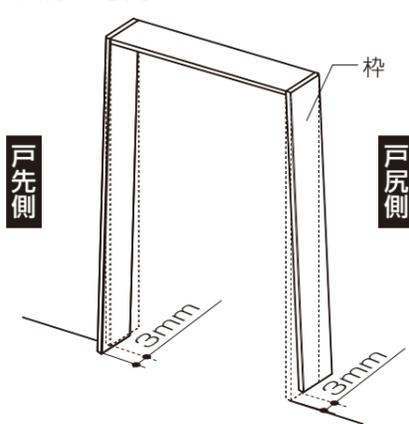
## ■取付け精度の許容範囲

※横方向の倒れ・奥行き方向のねじれ・枠のタイコ・ツツミが3mmを超える場合は、3mm以内になるように取付けを修正してください。  
 (引戸が吊込めない・ソフトモーション機構の作動不良の原因となります。)

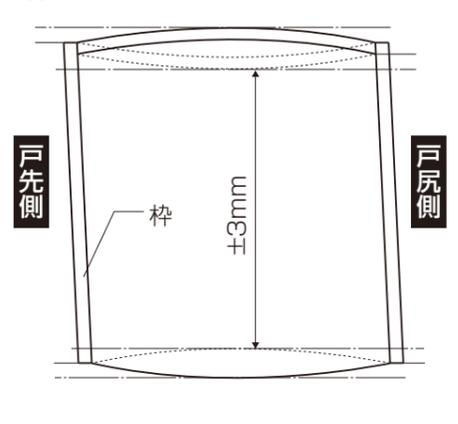
### ●横方向の倒れ



### ●奥行き方向のねじれ

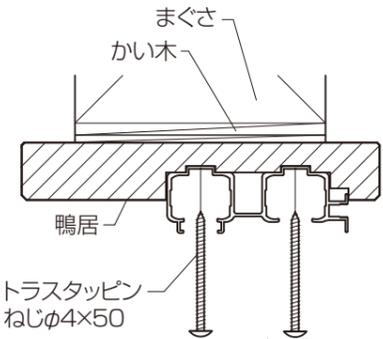


### ●枠のタイコ・ツツミ



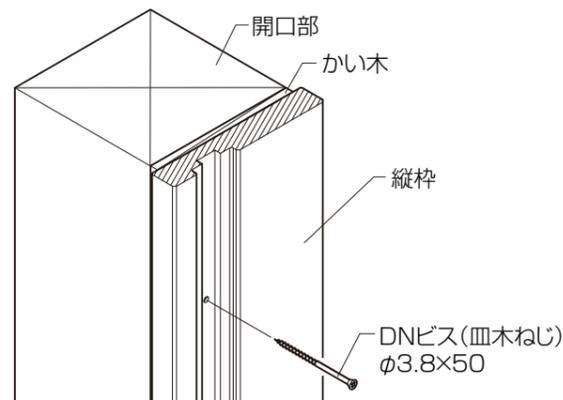
### ●鴨居

※鴨居はトラスタッピンねじφ4×50で固定してください。



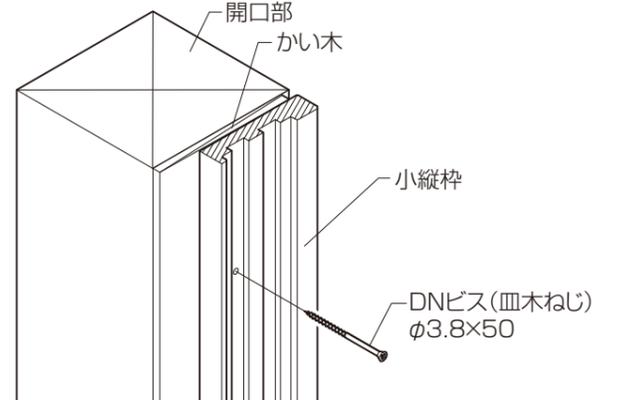
### ●縦枠

※DNビス(皿木ねじ)φ3.8×50で固定してください。



### ●小縦枠

※DNビス(皿木ねじ)φ3.8×50で固定してください。

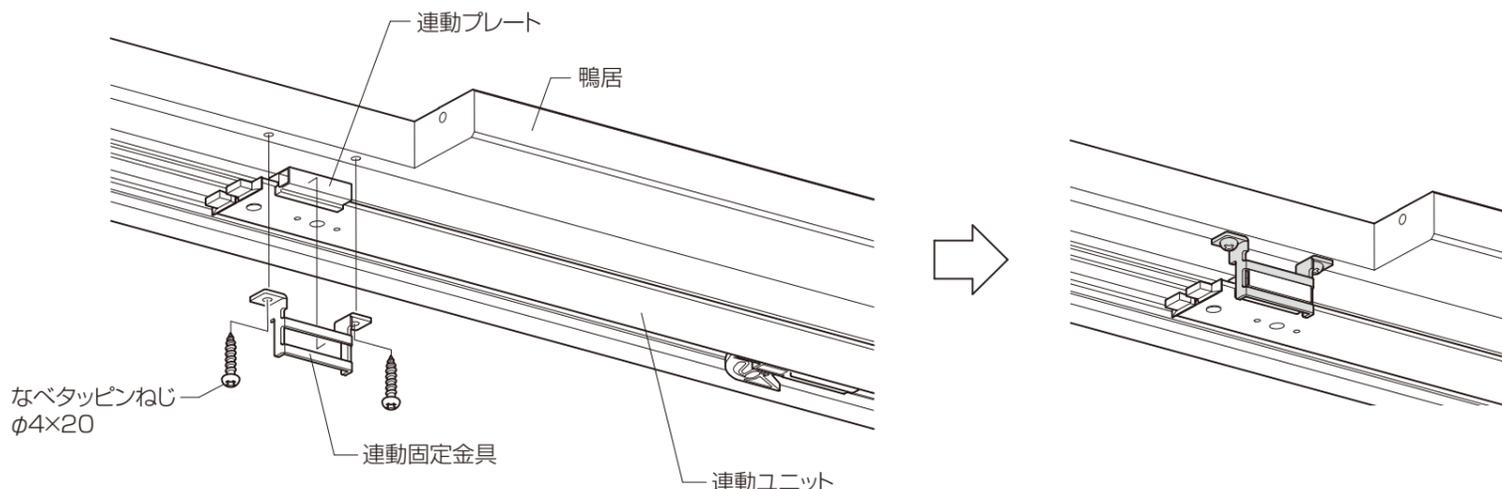


### お願い

※梁またはまぐさが軽量鉄骨の場合は、ねじ保持力が弱いので直接固定しないでください。必ず枠と軽量鉄骨の間に木枠を入れて取付けてください。  
 ※鴨居の躯体固定ねじを締めすぎると、本体の動きが悪くなる場合があります。本体吊込み時に動きが悪い場合は、ねじをゆるめてください。

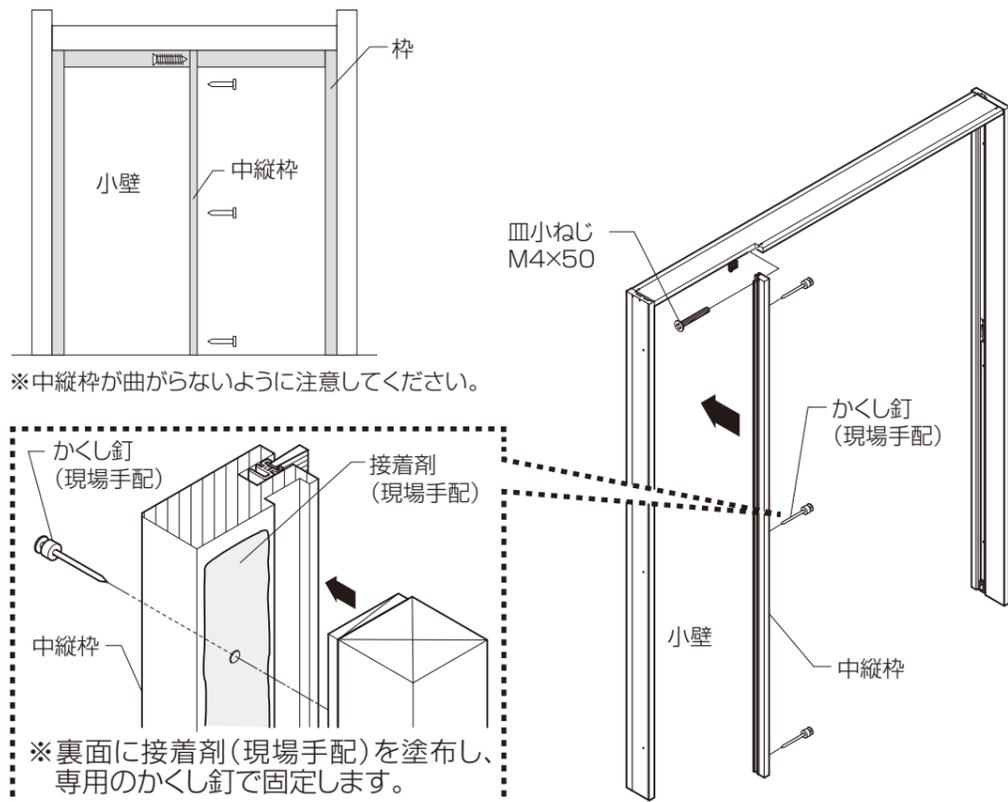
## 3 連動固定金具の取付け(片引2枚建のみ)

①連動ユニットの連動プレートを挟み込むように、連動固定金具を鴨居に取付けてください。  
 ※ねじで連動ユニットを傷付けないように注意してください。



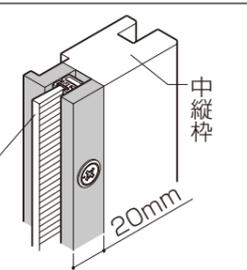
#### 4 中縦枠の取付け(片引2枚建のみ)

①中縦枠を皿小ねじM4×50で取付けてください。



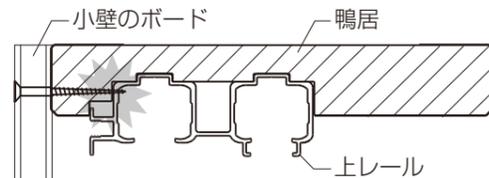
※裏面に接着剤(現場手配)を塗布し、専用のかくし釘で固定します。

中縦枠を固定する際、釘やタッカーをモヘア側から表裏20mmの斜線部には打たないでください。中縦枠にはモヘアを調整する機能が付いているため、モヘア部品が破損し調整出来なくなります。



#### お願い

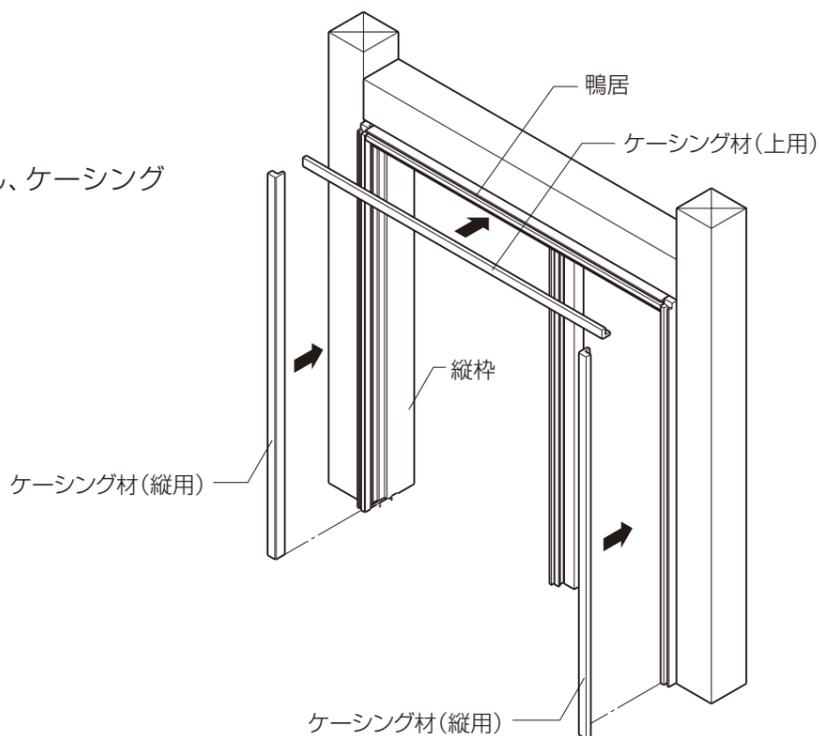
- ※片引きの建具引込み部の小壁は、枠を開口部に取付けてから施工してください。小壁のボードを取付ける際、取付けねじが鴨居と上レールを貫通しないように注意してください。作動不良の原因となります。
- ※必ず内装ボードは縦枠に突きあてて施工してください。突きあてができない場合は必ずかい木を入れてください。
- ※本製品は上吊り方式を採用しています。梁(まぐさ)は強度を要するため、断面寸法105mm×180mm以上を使用してください。鴨居およびレールの垂れ下がりの原因になります。
- ※梁またはまぐさが軽量鉄骨の場合は、ねじ保持力が弱いので直接固定しないでください。必ず枠と軽量鉄骨の間に木枠を入れて取付けてください。
- ※鴨居の躯体固定ねじを締込みすぎると、本体の動きが悪くなる場合があります。本体吊込み時に動きが悪い場合は、ねじをゆるめてください。



#### 5 ケーシング材の取付け

※壁材・床材を仕上げた後、ケーシング材を取付けます。

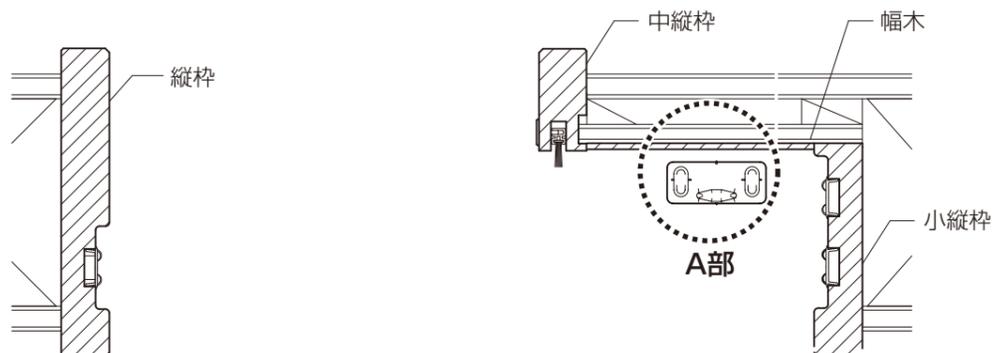
- ①別梱のケーシング材を現場寸法に合わせて切断します。
- ②枠のケーシング溝へケーシング材を差込みます。
- ③ケーシング溝とケーシング材裏面に接着剤(現地手配)を塗布し、ケーシングを固定します。



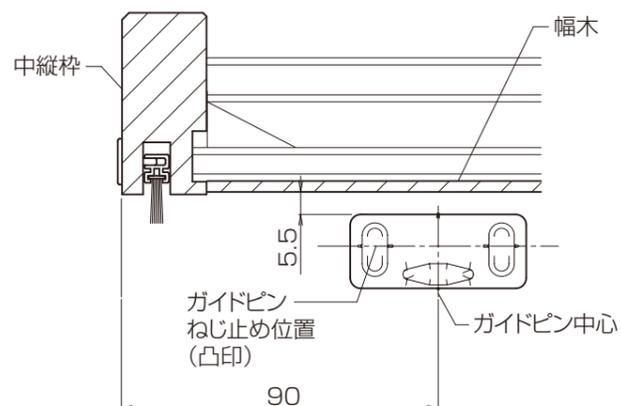
#### 6 ガイドピンの取付け

①固定ガイドピンの取付け(片引2枚建のみ)

- ガイドピンを枠に同梱のねじ(皿タッピンねじφ3.5×20)で床材に固定します。
- ※本体の開閉操作に影響が出ますので、A部詳細図にしたがって取付けてください。
- 図の位置および向きにガイドピンを置き、ガイドピンの長穴(2カ所)の凸印(ライン)の位置にねじ止めしてください。
- ※図は、左勝手を示します。右勝手の場合は、図と左右対称の位置となります。



#### ■ A部詳細図

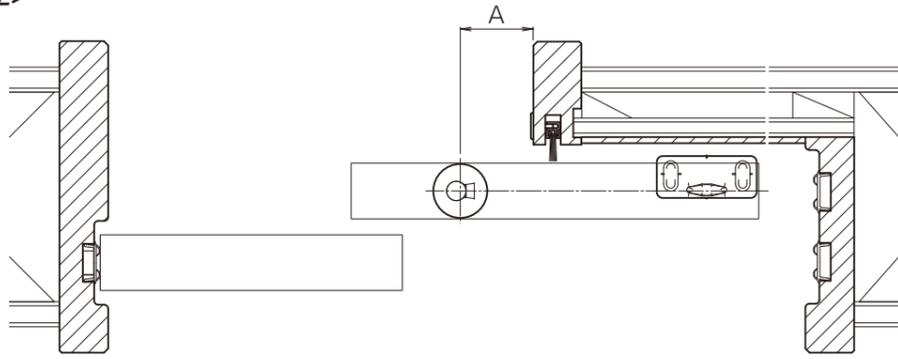


## ②埋込みガイドピンの位置出し

●下図の位置にガイドピンの位置出しをしてください。

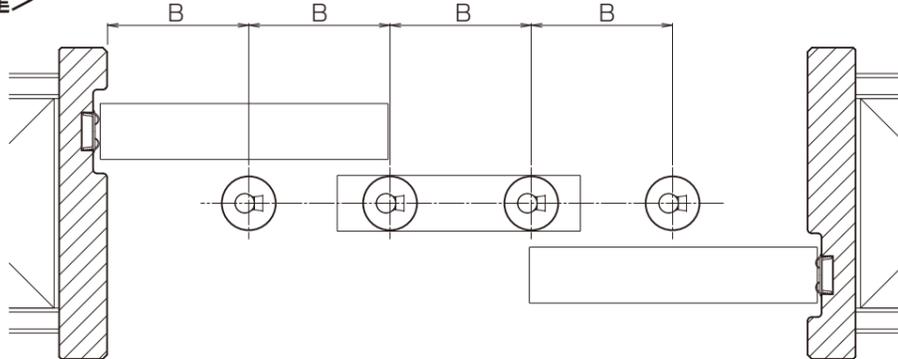
※位置のズレは開閉方向で±10mm以下、本体の面方向で±2mm以下で位置出しをしてください。  
ズレが大きい場合、開閉時に本体がピンから外れる場合があります。

### <片引2枚建>



W呼称(枠外寸法)	A寸法
W16(1644)	218
特注	(2W-1329)/9

### <引違3枚建>



W呼称(枠外寸法)	B寸法
W16(1644)	319
特注	(W-48)/5

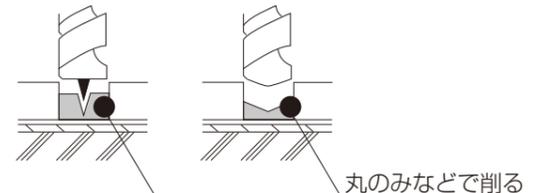
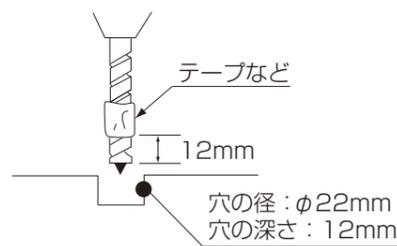
## ③埋込みガイドピンの位置にドリル(φ22)で穴を開けてください。

※ドリルの穴の深さの位置にテープを巻き目印とすると確実に12mm深さの穴をあけることができます。

※穴の深さが不足していると埋込みガイドピンベースが最後まで入らず走行性が悪くなります。

※穴をあけた後、バリ、切粉を取り除いてください。

※穴をあける際は床に対してドリルを垂直にしてください。本体開閉時の走行性が悪くなるおそれがあります。

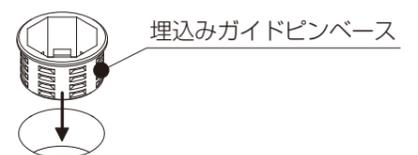
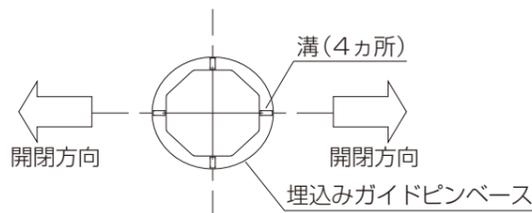


※フローリングが直貼の場合は穴を途中まであけ、丸のみなどで削って仕上げてください。

## ④埋込みガイドピンベースを部品のつば部の溝が本体の走行方向に並行、または垂直になるように穴にはめ込んでください。

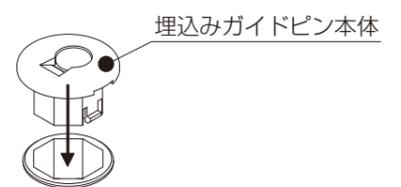
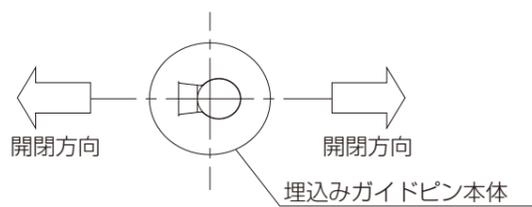
※直接部品をたたかず、あて木などを使用してください。床にキズがついたり部品が破損するおそれがあります。

※確実に埋込みガイドピンベースがはまっていることを確認してください。



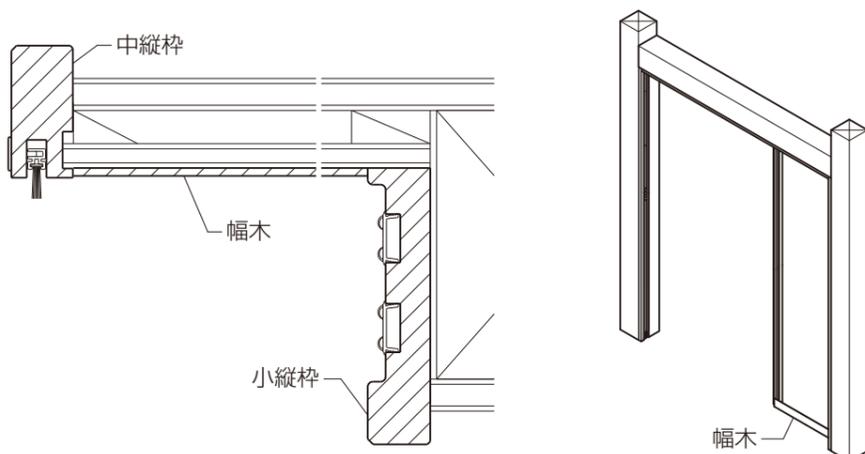
## ⑤埋込みガイドピンベースにガイドピン本体を図のようにカチッと音がするまで押し込んでください。

※本体の吊込み後にピンの位置調整をします。本体吊込み後に、ガイドピン本体を取付ける場合は紛失に注意してください。



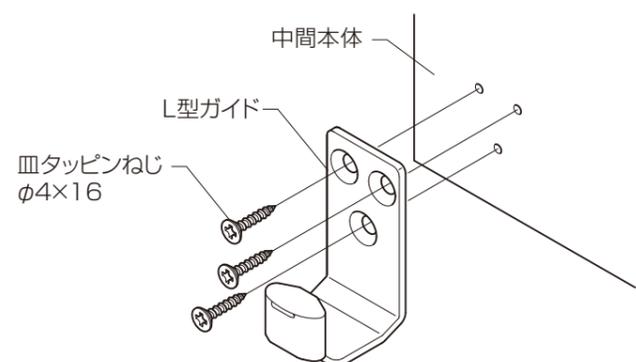
## 7 幅木の取付け(片引2枚建のみ)

※小壁のボードと床材を見切るために幅木が同梱されています。幅木部材の裏面にまんべんなく接着剤(現場手配)を塗布し、専用のかくし釘で固定します。かくし釘のピッチは、200~300mmです。



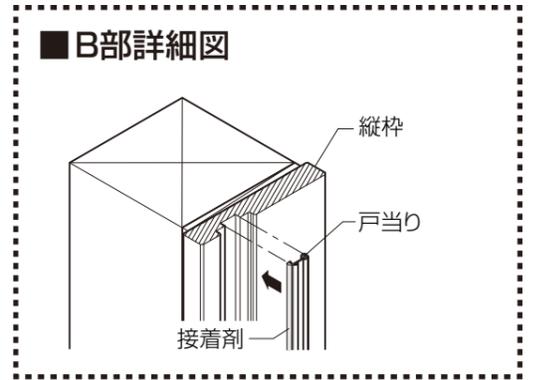
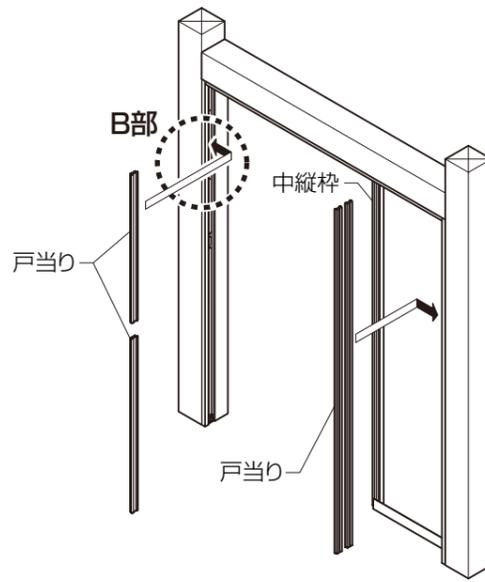
## 8 L型ガイドの取付け

中間本体の下部にL型ガイドを取付けます。



## 9 戸当りの取付け

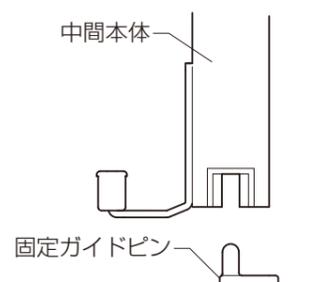
- ①戸当りを現場の寸法に合わせて切断します。
  - ②戸当りに接着剤(現場手配)をつけて縦枠に取付けます。
- ※戸当りの接着は必ず枠の建付け完了後に行ってください。



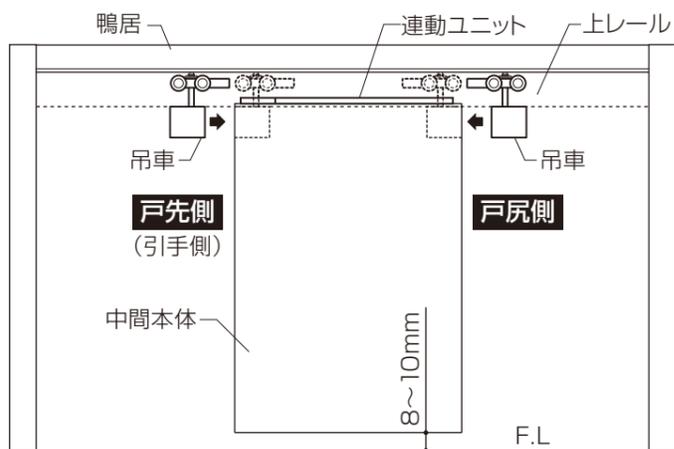
## 10 本体の吊込み

### ■ 中間本体の吊込み

- ①中間本体を持上げて、下部の溝に固定ガイドピンを入れます。



- ②片側ずつ吊車を本体に**水平に押込む**と、ワンタッチで取付けられます。  
※吊車の凸部を本体上部溝の凹部に合わせて差込みます。
  - ③本体と床のチリ寸法が8~10mmの範囲にあることを確認してください。調整が必要な場合は『■本体の調整 1 上下調整』の手順にそって調整をしてください。
- ※本体と床のすき間が範囲から外れていると、ガイドピンが外れたり、ガイドピンと本体の下部がこすれる場合があります。



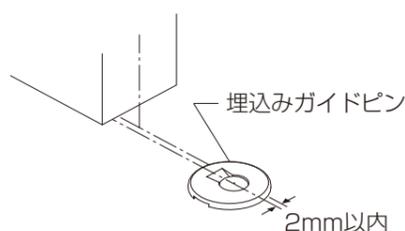
お願い

※吊車が干渉しない枠の中央部で吊込みを行ってください。

### ▲ 注意

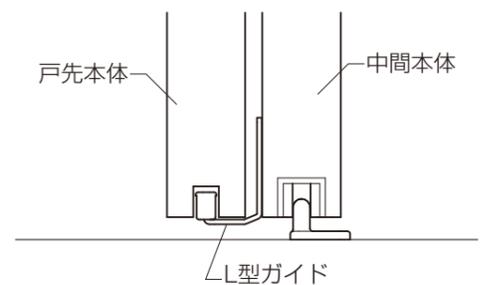
●吊車の本体への取付けは、吊車が本体木口面と同一面になるまで押込んでください。押込み後、引張って抜けないことを確認してください。押込みが足りないと本体が脱落するおそれがあります。

- ④埋込みガイドピンの中心が本体の中心から2mm以内にある事を確認してください。調整が必要な場合は、『■本体の調整 3 ガイドピン位置前後調整』の手順にそって調整をしてください。



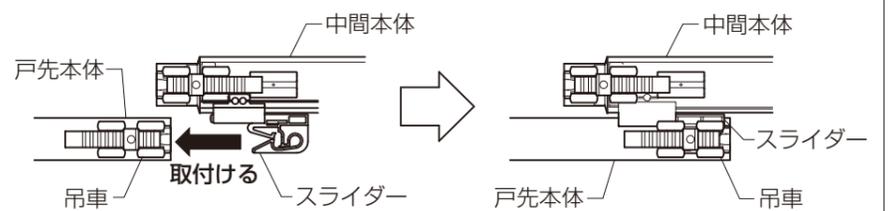
### ■ 戸先本体の吊込み

- ①戸先本体を持上げて、下部の溝にL型ガイドを入れます。

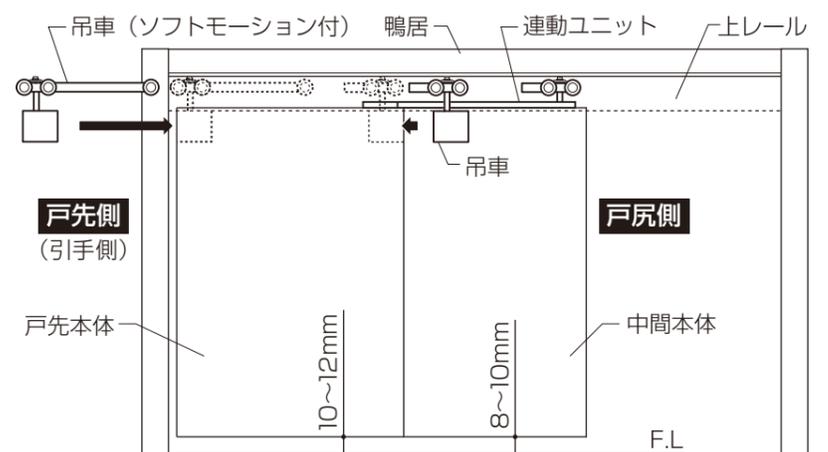


- ②戸尻側の吊車を本体に取付けて、連動ユニットに固定してください。

### ● 連動ユニットと吊車の固定方法

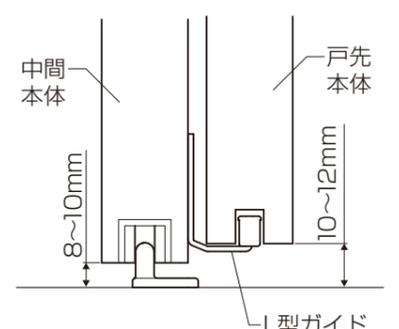


- ③戸先側に吊車(ソフトモーション付)を取付けてください。
  - ④本体と床のチリ寸法が10~12mmの範囲にあることを確認してください。調整が必要な場合は『■本体の調整 1 上下調整』の手順にそって調整をしてください。
- ※本体と床のすき間が範囲から外れていると、ガイドピンが外れたり、ガイドピンと本体の下部がこすれる場合があります。



お願い

- ※中間本体と床のチリ寸法は8~10mmにしてください。ガイドピンが外れたり、L型ガイドが下枠をキズつける場合があります。
- ※戸先本体と床のチリ寸法は中間本体のチリ寸法より大きくしてください。L型ガイドと戸先本体が干渉し、開閉操作に支障がでる場合があります。



中間本体の吊込み後、必ず動作確認を行い、必要に応じて「■本体の調整」(10/16ページ)を行ってください。

## ① バーハンドルの取付け

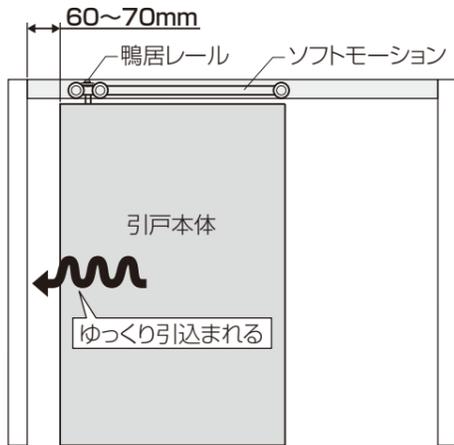
バーハンドルの取付けについては、別梱のバーハンドルセットに同梱の取付け説明書をご覧ください。  
また、バーハンドルに同梱の戸当りは使用しません。

## ② 錠の取付け

錠の取付けについては、錠セットに同梱の取付け説明書をご覧ください。

## ③ ソフトモーションの動作確認

- 本体を停止位置より60～70mm動かして、ゆっくりと引き込まれるか確認してください。



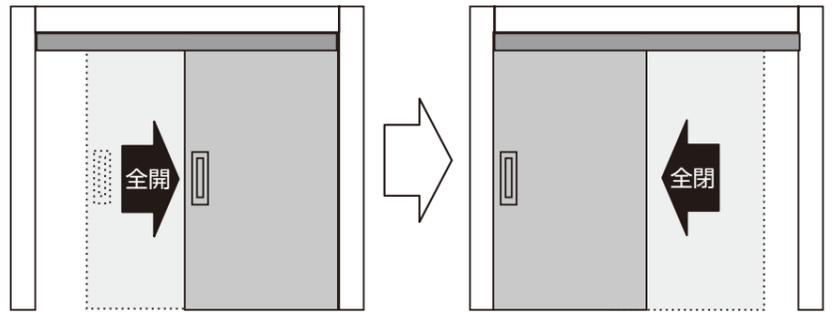
### ■ ソフトモーション機構の自動復帰方法

※ 本体を吊り込んでソフトモーション機構が作動しない場合は以下の手順を行うことでソフトモーション機構が自動復帰します。

- ① 本体を全開してください。
- ② 本体を全閉してください。
- ③ ①、②を1～2回繰り返してください。ソフトモーション機構が復帰します。

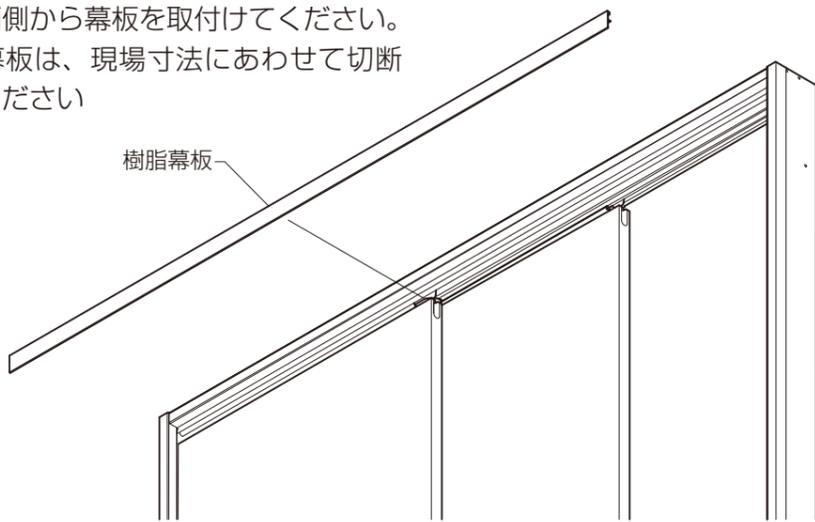
※ 必ず縦枠に当たるまで全開・全閉を行ってください。ソフトモーション機構復帰時に「カチッ」と手応えを感じます。

※ ソフトモーション機構復帰後は本体を無理に押し込んだり、引っ張ったりしないでください。作動不良の原因となります。

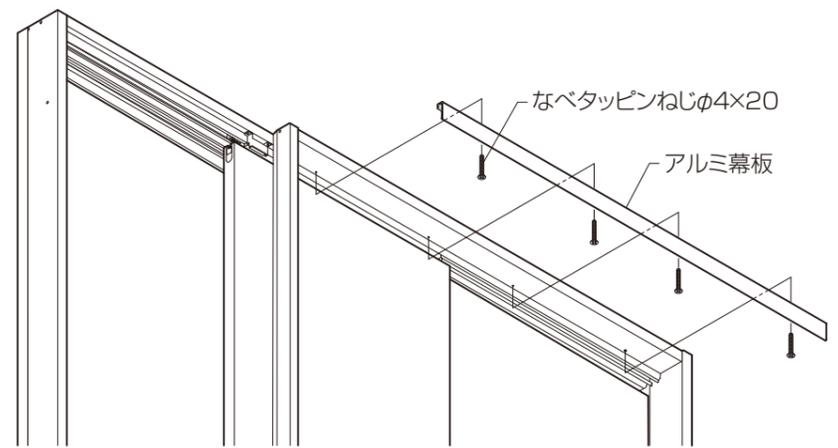


## ④ 幕板の取付け

本体の両側から幕板を取付けてください。  
※ 樹脂幕板は、現場寸法にあわせて切断してください



(片引2枚建のみ)



## ■ 本体の調整

### ① 上下調整(調整幅 上4mm、下1mm)

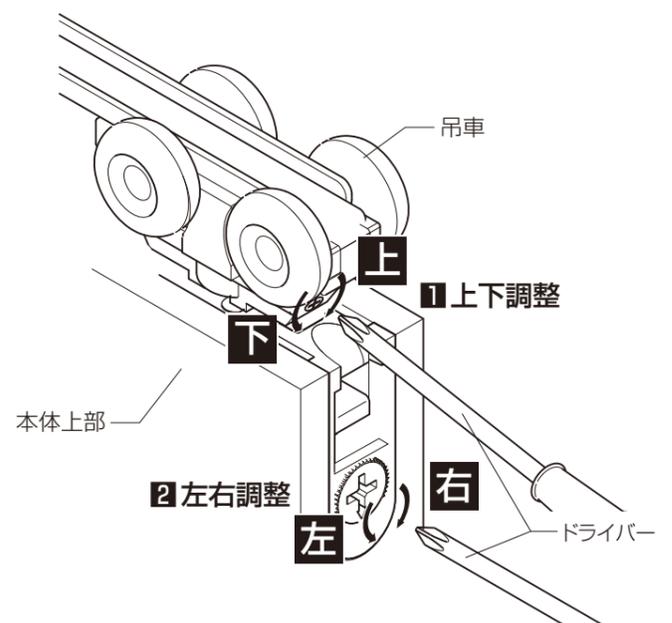
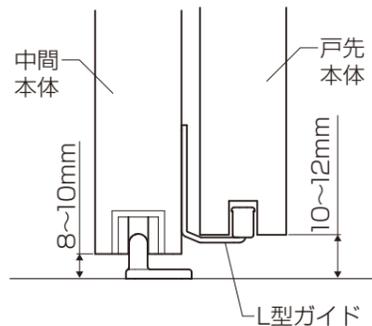
- プラスドライバーで、吊車上部の調整ねじを右に回すと本体が上がり、左に回すと本体が下がります。

※ 本体と床のすき間が範囲から外れていると、ガイドピンが外れたり、ガイドピンと本体の下部がこすれる場合があります。

#### ● お願い

※ 中間本体と床のチリ寸法は8～10mmにしてください。ガイドピンが外れたり、L型ガイドが下枠をキズつける場合があります。

※ 戸先本体と床のチリ寸法は中間本体のチリ寸法より大きくしてください。L型ガイドと戸先本体が干渉し、開閉操作に支障がでる場合があります。



### ② 左右調整(調整幅左右各2mm)

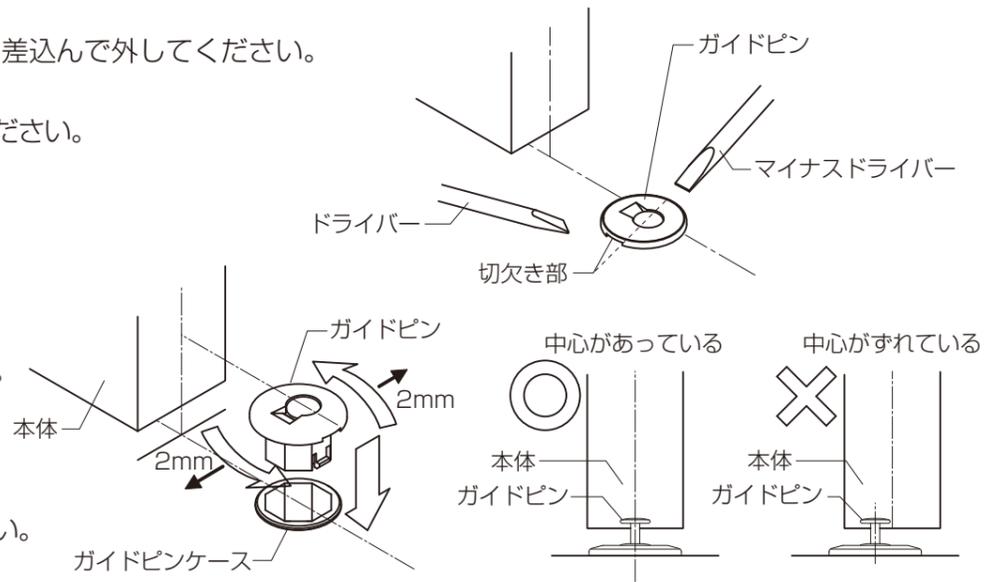
- 左右調整は、プラスドライバーで吊車下部の調整ねじを右に回すと本体が右へ動き、左に回すと本体が左に動きます。

### 3 ガイドピン位置前後調整 (調整幅 4mm)

- 固定ガイドピンを切り欠き部 (2カ所) にマイナスドライバーを同時に差込んで外してください。  
※切り欠き部 1カ所だけで外すと、製品が変形するおそれがあります。  
※床にキズがつかないようにマイナスドライバーの下にあて布をして外してください。

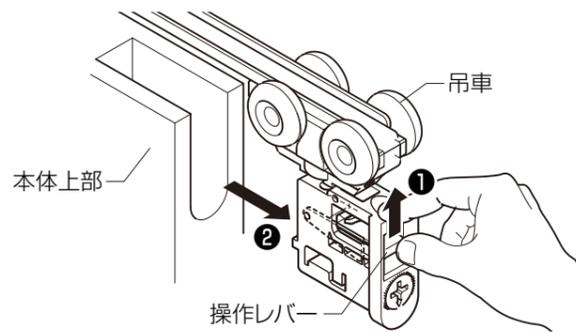
- 本体が静止していることを確認し、本体の中心線上にガイドピンの先端がくるようにガイドピンをまわして位置をあわせてください。  
※中心のズレは 2mm 以下に調整してください。  
※中心がずれていると、開閉時にガイドピンが外れてしまう場合があります。  
※ガイドピンケース内部、ガイドピン本体にゴミなどが入り込んでいる場合はきれいに取り除いてください。

- 位置があったらガイドピンをガイドピンケースへ最後まで押込んでください。



### 4 本体の取外し方法

- 本体を手で支えてから吊車の操作レバーを指でつまみ、上に押し上げます。  
次に吊車を本体の内部ケースより引抜き、取外します。

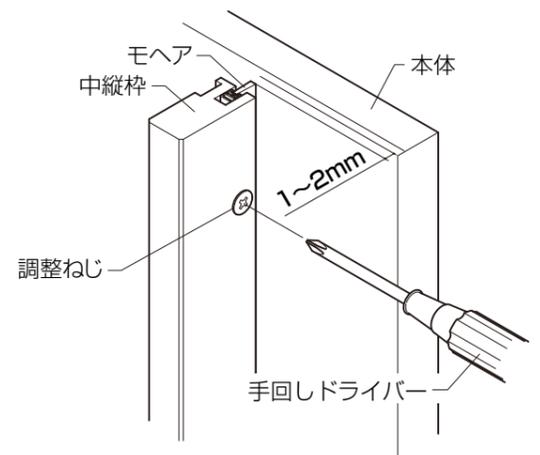
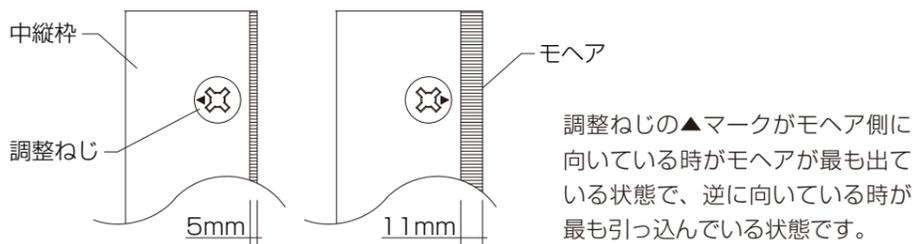


### 5 中縦枠の調整 (調整代 +6mm)

- ※本体とモヘアのすき間が 1 ~ 2mm 程度になるように調整してください。

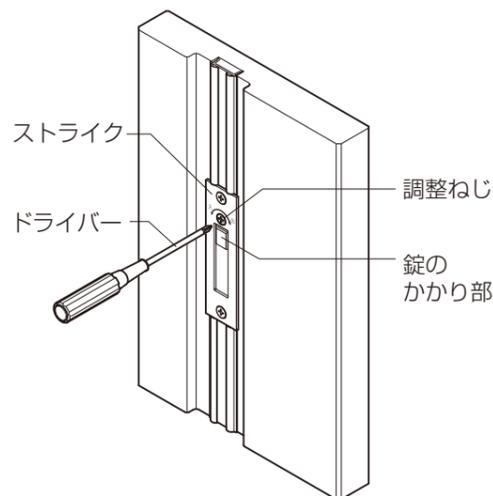
出荷時には輸送時のモヘアの折れ曲がりを防ぐためモヘアを最も引っ込めた状態で出荷しています。

- ①中縦枠のモヘア調整ねじを手回しドライバーで回してモヘアの出寸法を調整してください。
- ②調整後、本体とモヘアの先端が 1 ~ 2mm のすき間が確保されているか確認してください。



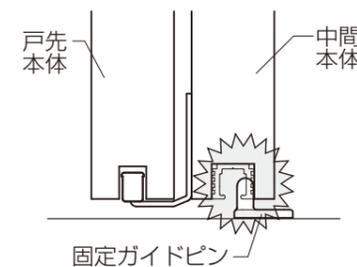
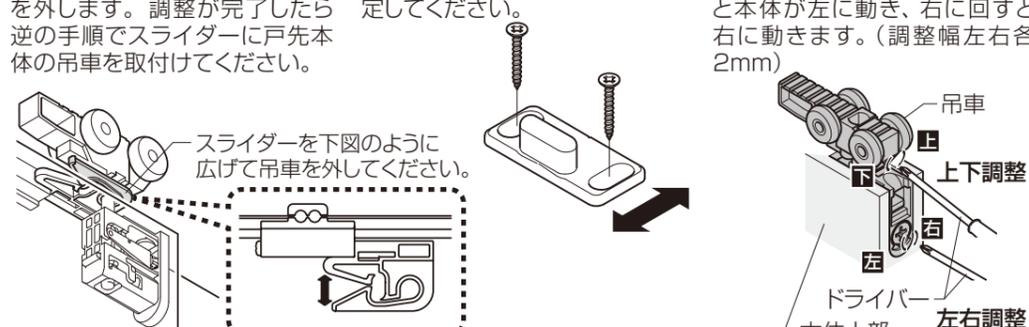
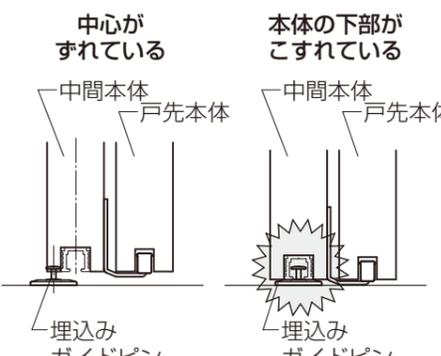
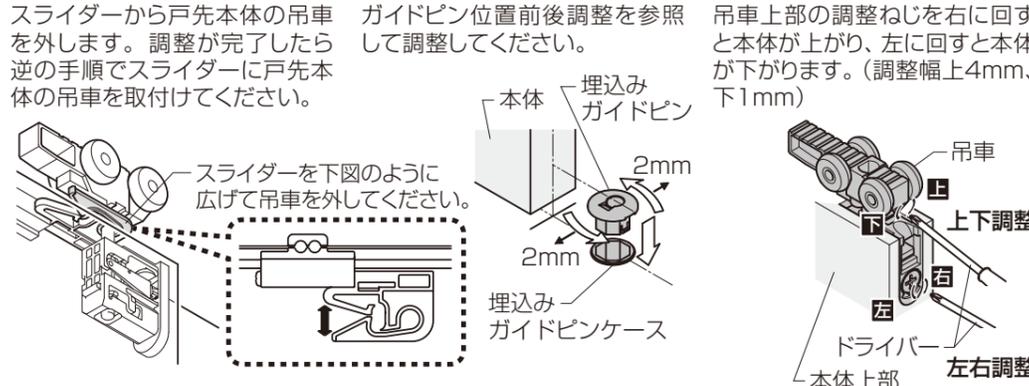
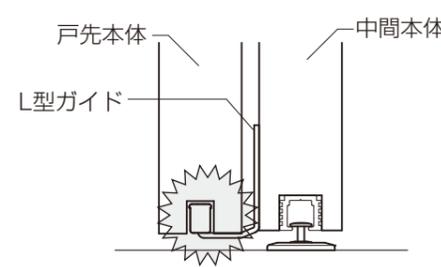
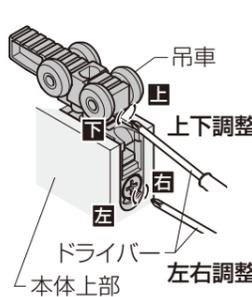
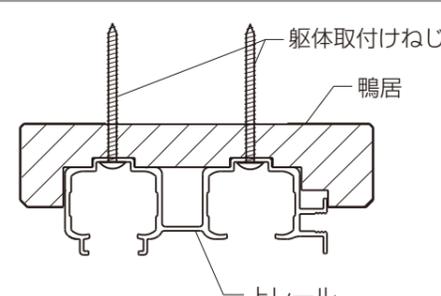
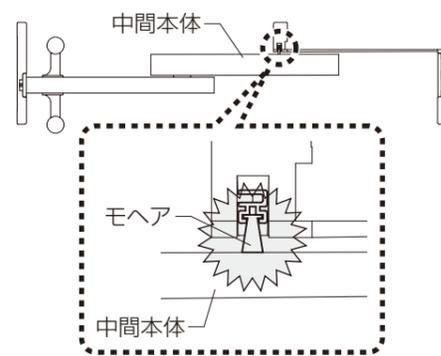
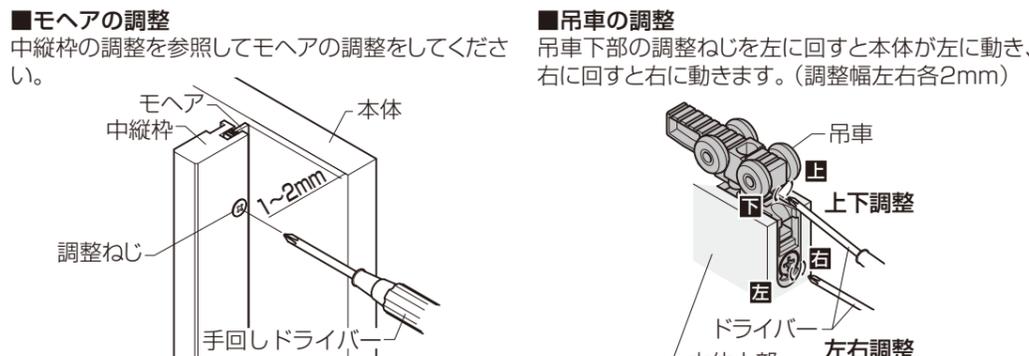
### 6 引戸錠のかかり調整

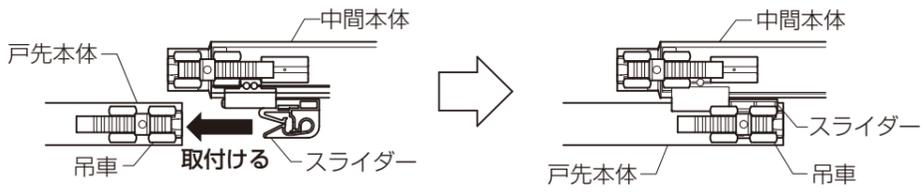
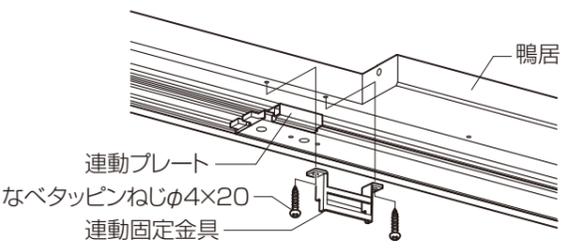
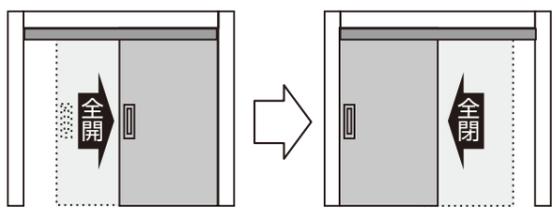
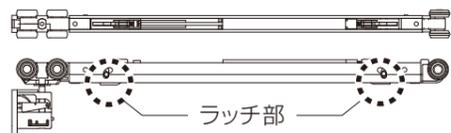
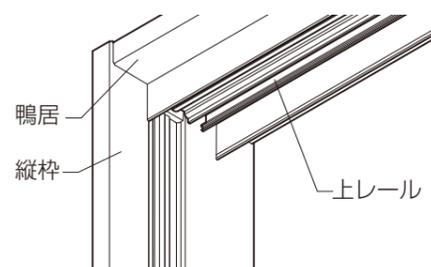
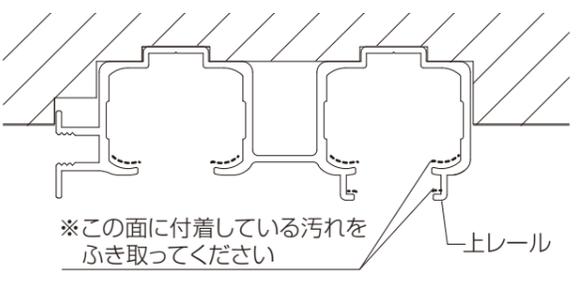
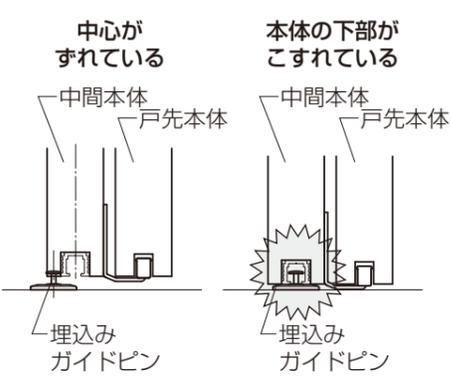
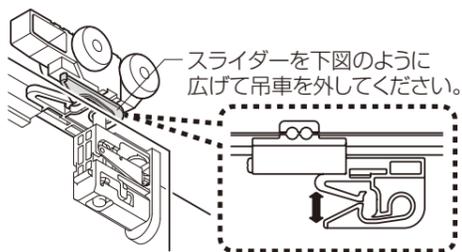
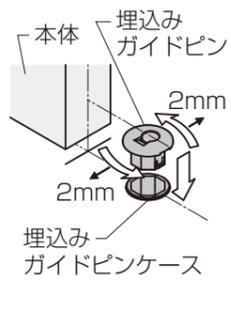
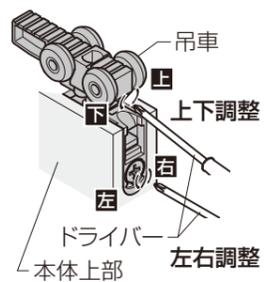
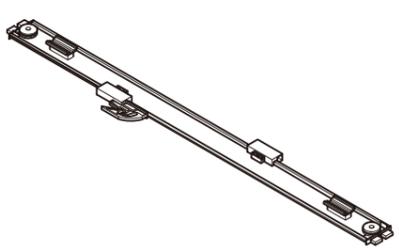
- ストライクの調整ねじを右に回すと錠のかかり部が出て、左に回すと錠のかかり部が奥に入ります。

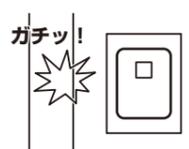
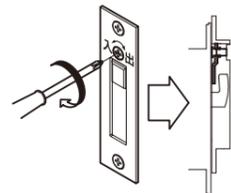
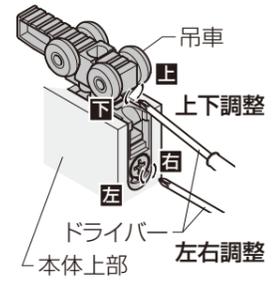
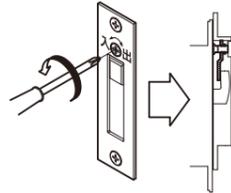
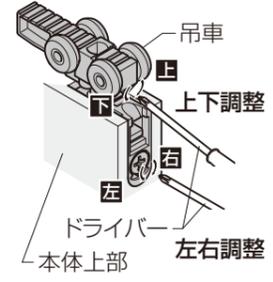


- ※美和ロック FN 錠ストライクには、錠のかかり調整機能は付いていません。  
調整が必要な場合は吊車の上下調整 (10/16) で対応してください。

## 7 異常時の対処方法

No.	現象	チェックポイント	対処方法
①	開閉が重い	<p>●固定ガイドピンと中間本体がこすれている</p> 	<p>固定ガイドピンと中間本体がこすれないように調整してください。</p> <p>■中間本体の連動を解除する スライダーから戸先本体の吊車を外します。調整が完了したら逆の手順でスライダーに戸先本体の吊車を取付けてください。</p> <p>■固定ガイドピンの調整 ネジを外して前後に調整して固定してください。</p> <p>■吊車の調整 吊車下部の調整ねじを左に回すと本体が左に動き、右に回すと右に動きます。(調整幅左右各2mm)</p> 
		<p>●埋込みマグネットピンと中間本体がこすれている</p> <p>中心がずれている</p> <p>本体の下部がこすれている</p> 	<p>埋込みガイドピンと中間本体がこすれないように調整してください。</p> <p>■中間本体の連動を解除する スライダーから戸先本体の吊車を外します。調整が完了したら逆の手順でスライダーに戸先本体の吊車を取付けてください。</p> <p>■埋込みガイドピンの調整 ガイドピン位置前後調整を参照して調整してください。</p> <p>■吊車の調整 吊車上部の調整ねじを右に回すと本体が上がり、左に回すと本体が下がります。(調整幅上4mm、下1mm)</p> 
		<p>●L型ガイドと戸先本体がこすれている</p> 	<p>L型ガイドと戸先本体がこすれないように、戸先本体または中間本体を調整してください。 ※中間本体を下げる場合はガイドピンとのこすれ、床とのこすれに注意してください。</p> <p>■吊車の調整 吊車上部の調整ねじを右に回すと本体が上がり、左に回すと本体が下がります。(調整幅上4mm、下1mm)</p> 
		<p>●連動ユニットの抵抗が大きい</p>	<p>連動ユニットを交換してください。</p>
		<p>●鴨居の躯体取付けねじの締めすぎでレールがすぼんでいる</p>	<p>躯体取付けねじを緩めてください。</p> 
②	本体が最後まで閉まらない	<p>●開閉が重いことによる</p>	<p>No.①を参照してください。</p>
		<p>●中間本体とモヘアが接触している</p> 	<p>中間本体にモヘアが触れて開閉が重くならないように調整してください。</p> <p>■モヘアの調整 中縦枠の調整を参照してモヘアの調整をしてください。</p> <p>■吊車の調整 吊車下部の調整ねじを左に回すと本体が左に動き、右に回すと右に動きます。(調整幅左右各2mm)</p> 

No.	現象	チェックポイント	対処方法
③	中間本体が連動しない	●連動ユニットの-sliderに吊車が固定されていない	連動ユニットのsliderに吊車を固定してください。 
		●連動固定金具が枠に固定されていない	連動固定金具を取付けてください。 
④	ブレーキが効かない	●吊車(ソフトモーション付)のラッチが上がっている	本体を全開した後、全閉することを1~2回繰り返してください。ソフトモーション機構が自動復帰します。 
⑤	ブレーキが効かない(長期使用后)	●吊車(ソフトモーション付)のラッチ部が磨耗している 	吊車(ソフトモーション付)を交換してください。
⑥	異音がする	●上レールにごみが付着している 	上レールを清掃してください。  ※この面に付着している汚れをふき取ってください
		●埋込みマグネットピンと中間本体がこすれている 	埋込みガイドピンと中間本体がこすれないように調整してください。 <b>■中間本体の連動を解除する</b> sliderから戸先本体の吊車を外します。調整が完了したら逆の手順でsliderに戸先本体の吊車を取付けてください。  <b>■埋込みガイドピンの調整</b> ガイドピン位置前後調整を参照して調整してください。  <b>■吊車の調整</b> 吊車上部の調整ねじを右に回すと本体が上がり、左に回すと本体が下がります。(調整幅上4mm、下1mm) 
		●連動ユニットが磨耗している 	連動ユニットを交換してください。

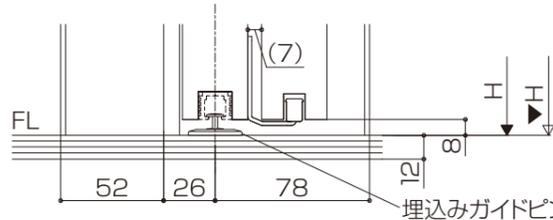
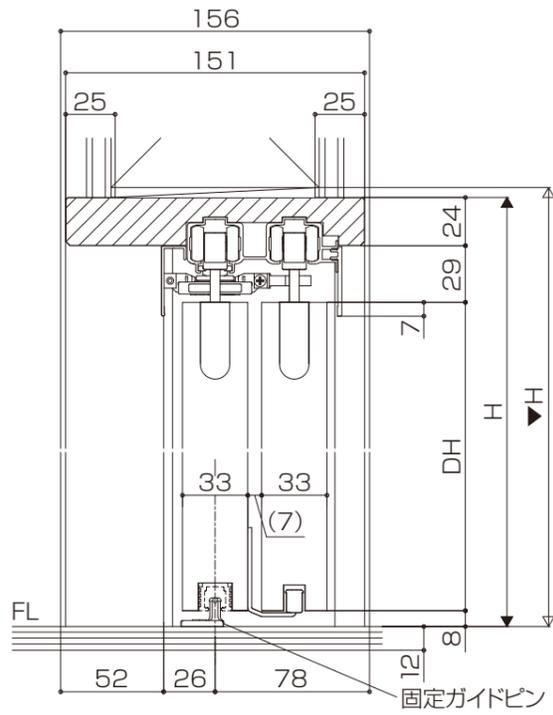
No.	現象	チェックポイント	対処方法
⑦	<b>鍵がかからない</b> 	●ストライク調整が不相当	ストライク調整ねじを 右に回してください。 
		●本体の上下位置が不相当 ●本体が傾いている	鍵がかかるように本体の位置を調整してください。 <b>■吊車の調整</b> 吊車上部の調整ねじを右に回すと本体が上がり、 左に回すと本体が下がります。 (調整幅上4mm、下1mm) 
⑧	<b>鍵が甘い</b> (縦枠と本体戸先に すき間が開く)	●ストライク調整が不相当	ストライク調整ねじを 左に回してください。 
		●本体の上下位置が不相当 ●本体が傾いている	鍵がかかるように本体の位置を調整してください。 <b>■吊車の調整</b> 吊車上部の調整ねじを右に回すと本体が上がり、 左に回すと本体が下がります。 (調整幅上4mm、下1mm) 

■納まり図

■上吊連動引戸 片引2枚建

ノンケーシング

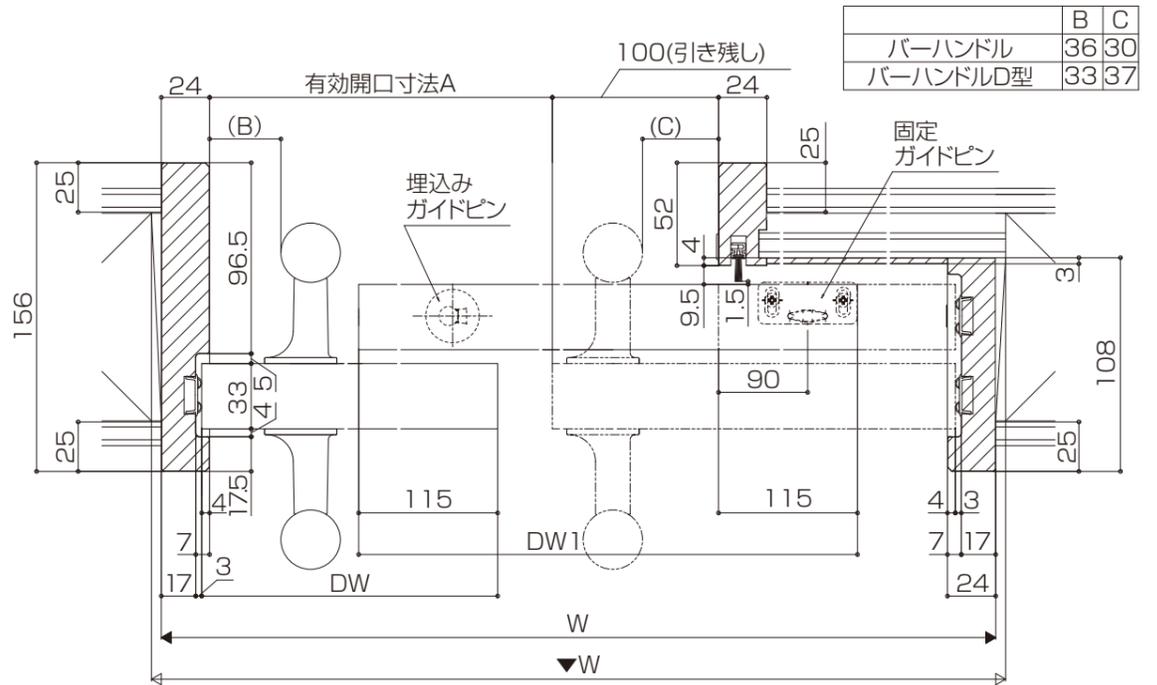
縦断面図



埋込みガイドピン配置図



横断面図



	B	C
バーハンドル	36	30
バーハンドルD型	33	37

※この図は両側バーハンドルの例です。

有効開口寸法

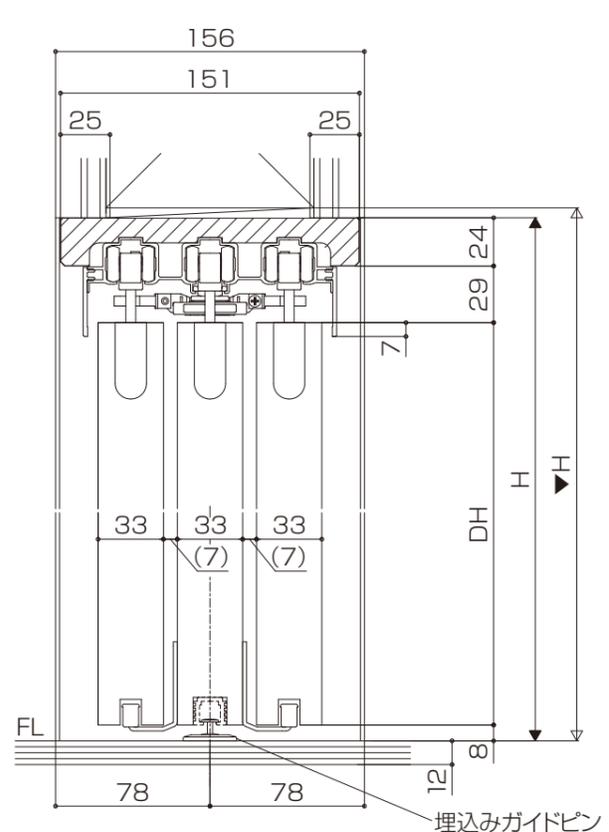
W呼(枠外寸法)	A寸法
W16(1644)	922

算出式：A寸法=(2W-522)/3  
 DW=(W+390)/3  
 DW1=(W+90)/3  
 D寸法=(2W-1329)/9

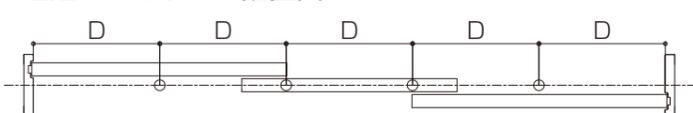
■上吊連動引戸 引違3枚建

ノンケーシング

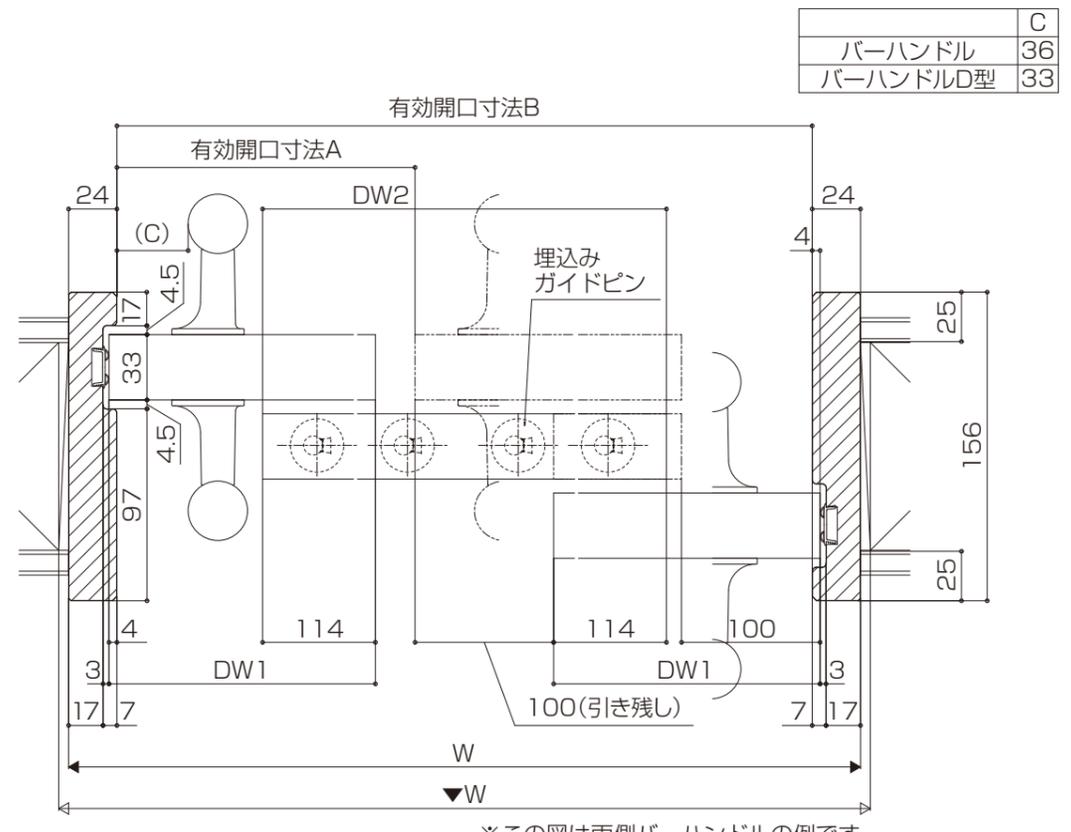
縦断面図



埋込みガイドピン配置図



横断面図



	C
バーハンドル	36
バーハンドルD型	33

※この図は両側バーハンドルの例です。

有効開口寸法

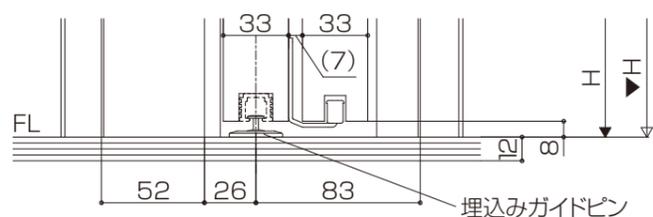
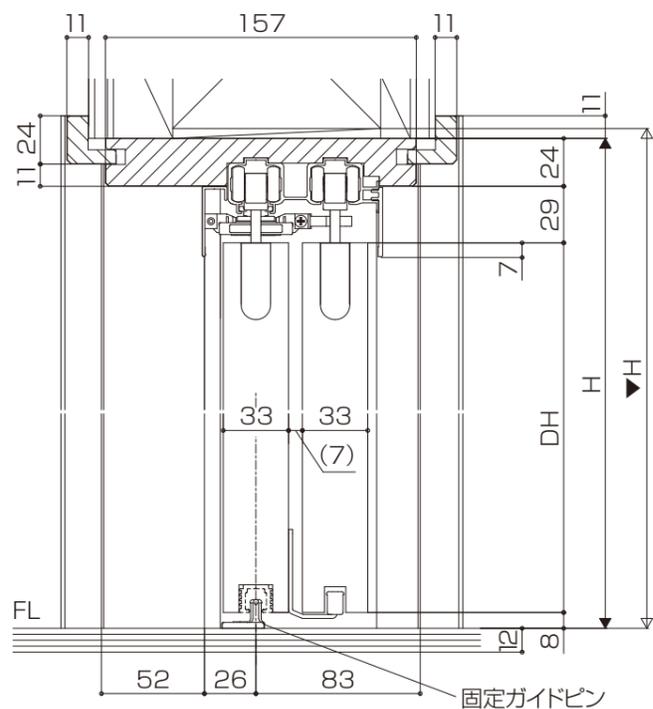
W呼称(枠外寸法)	A寸法	B寸法
W16(1644)	856	1596

算出式：A寸法=(2W-720)/3  
 B寸法=W-48  
 DW1=(W+288)/3  
 DW2=(W-12)/3  
 D寸法=(W-48)/5

■上吊連動引戸 片引2枚建

ケーシング付

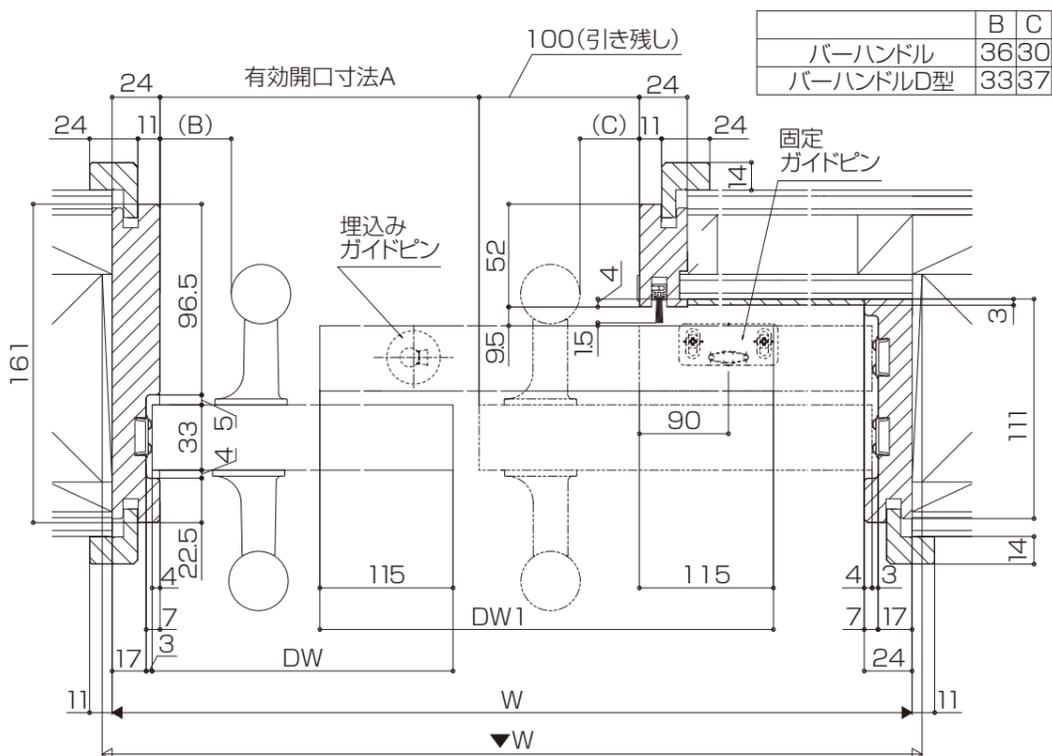
縦断面図



埋込みガイドピン配置図



横断面図



※この図は両側バーハンドルの例です。

有効開口寸法

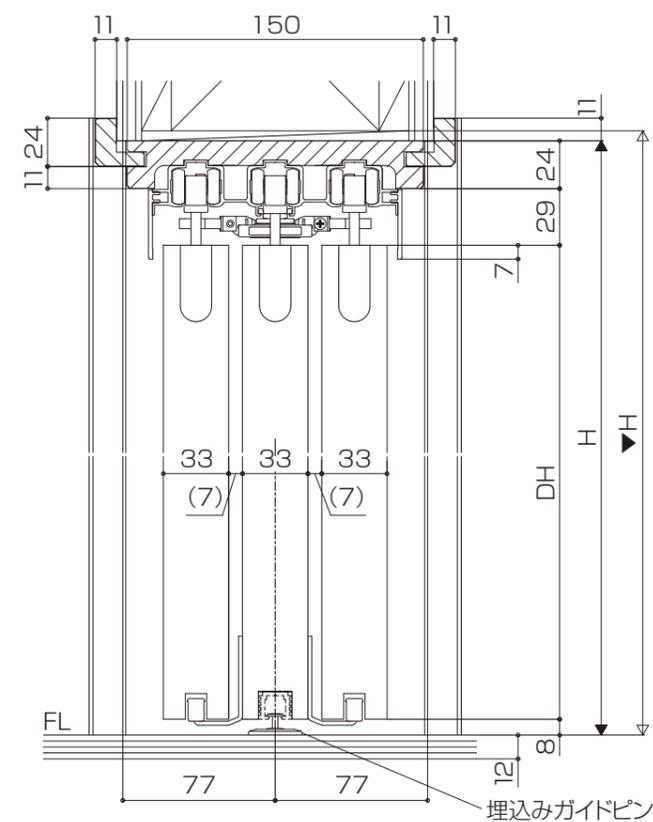
W呼称(枠外寸法)	A寸法
W16(1644)	922

算出式：A寸法=(2W-522)/3  
 DW=(W+390)/3  
 DW1=(W+90)/3  
 D寸法=(2W-1329)/9

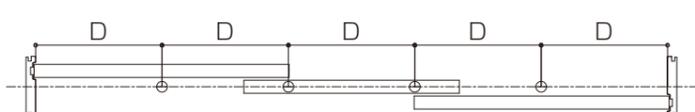
■上吊連動引戸 引違3枚建

ケーシング付

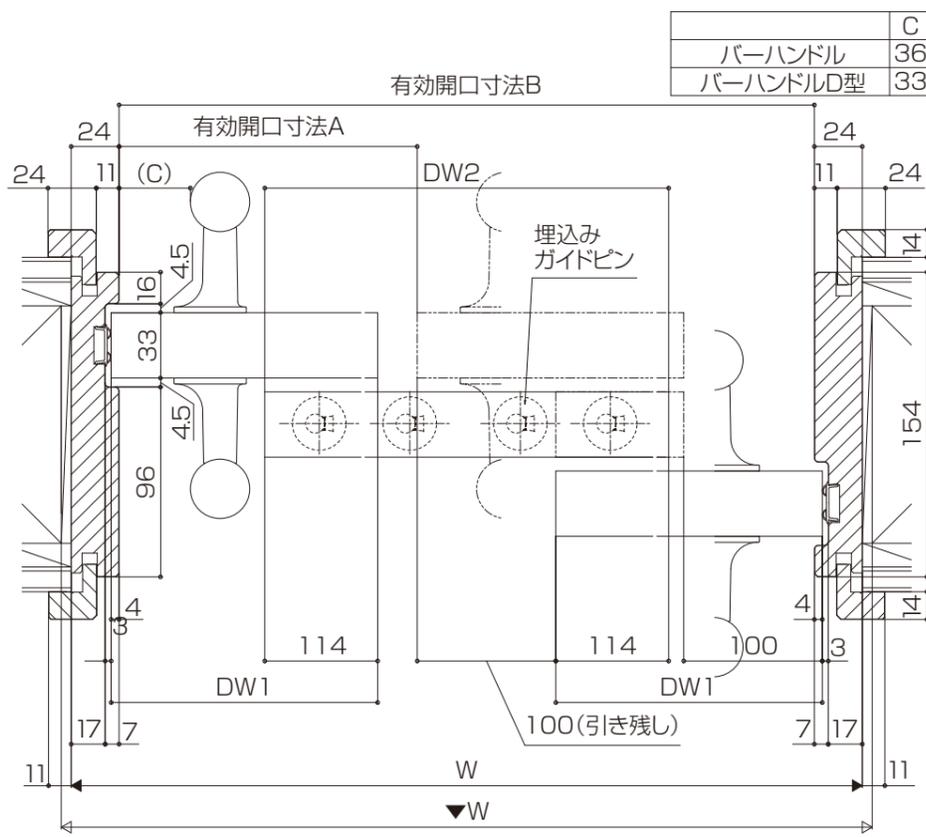
縦断面図



埋込みガイドピン配置図



横断面図



※この図は両側バーハンドルの例です。

有効開口寸法

W呼称(枠外寸法)	A寸法	B寸法
W16(1644)	856	1596

算出式：A寸法=(2W-720)/3  
 B寸法=W-48  
 DW1=(W+288)/3  
 DW2=(W-12)/3  
 D寸法=(W-48)/5